

35-11

35-11

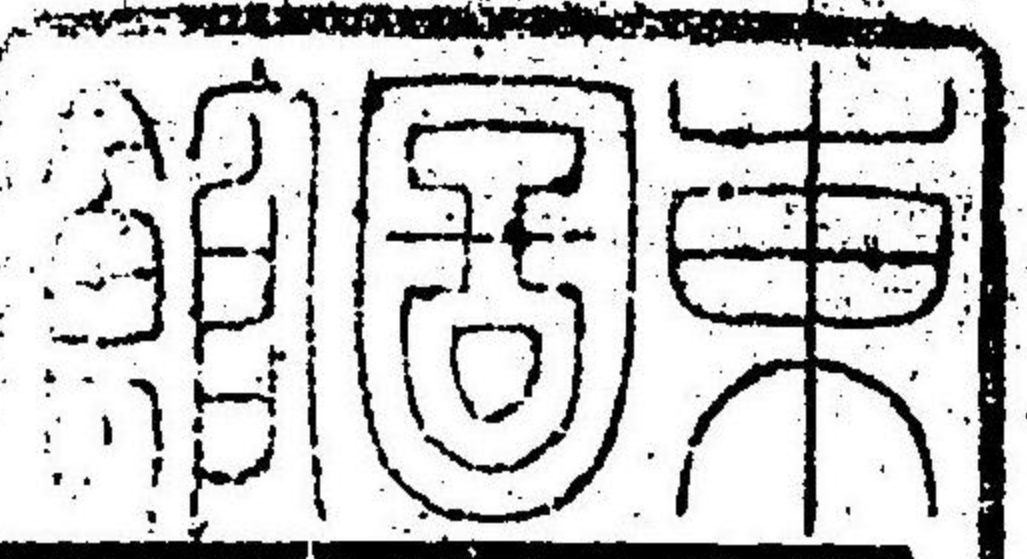


新編
國語
彙編

明治十六年七月印行

樂典

文部省



樂典總目次

卷之一

第一編 樂譜論 自第一條至第一百五十條

第一章 譜表ノ事

第二章 音部記號ノ事

第一節 音部記號總論

第二節 最高音部即チ(ト)字記號ノ事

第三節 低音部即チ(ヘ)字記號ノ事

第四節 中音部記號ノ事

第五節 次中音部記號ノ事

- 第六節 高音部記號ノ事
- 第七節 古代用次高音、上低音及ビ舊高音部記號ノ事
- 第三章 音符ノ事
 - 第一節 音符總論
 - 第二節 音符ノ調子ノ事
 - 第三節 音符ノ拍子ノ事
 - 第四節 音符ノ強弱ノ事
- 第四章 休止記號ノ事
- 第五章 嬰變等ノ事
 - 第一節 嬰ノ事
 - 第二節 變ノ事

- 第三節 本位ノ事
- 第四節 重嬰ノ事
- 第五節 重變ノ事
- 第六章 鹽梅及ビ雜記號等ノ事
 - 第一節 鹽梅ノ事
 - 第二節 雜記號ノ事
 - 第三節 發相記號ノ事
 - 第四節 略號ノ事
- 卷之二
- 第二編 旋律論 自第百五十一條至第三百一條
- 第一章 音程ノ事

第一節 音程總論

第二節 音程ノ名稱ノ事

第三節 全音階十四音程ノ事

第四節 音程轉回ノ事

第二章 協音程及ビ不協音程ノ事

第三章 旋律ノ種類ノ事

第一節 三種ノ旋律ノ事

第二節 半音階及ビ其音程ノ事

第三節 四分音階及ビ其音程ノ事

第四章 調及ビ其長短ノ事

第一節 調即チ音階ノ事

第二節 嬰ヲ有スル長音階ノ事

第三節 變ヲ有スル長音階ノ事

第四節 調號表ノ事

第五節 短音階即チ短ノ調ノ事

第六節 關係短音階ノ事

第七節 同主短調ノ事

第八節 移調等ノ事

第五章 七音ノ性質ノ事

第一節 主和絃屬和絃等ノ事

第二節 特質ヲ有スル音ノ事

第六章 古代調號表ノ事

- 第一節 古代調號表總論
- 第二節 古代嬰調號表ノ事
- 第三節 古代變調號表ノ事

○卷之三

第三編 和聲論 自第三百一條至第五百條

第一章 三和音ノ事

- 第一節 協音及ビ不協音ノ事
- 第二節 三和音轉回ノ事
- 第三節 平行進行、反行進行及ビ和聲上進行用法ノ規則ノ事

第四節 和聲的進行ノ事

第二章 第五度ノ七ノ和絃其轉回其解決及ビ轉調ノ事

- 第一節 第五度ノ七ノ和絃ノ事
- 第二節 第五度ノ七ノ和絃ノ轉回ノ事
- 第三節 第五度ノ七ノ和絃ノ解決ノ事
- 第四節 轉調ノ事
- 第三章 不協音ノ事
 - 第一節 經過法用不協音ノ事
 - 第二節 掛留法用不協音ノ事
 - 第三節 切分法用不協音ノ事
 - 第四節 增加法用不協音ノ事
- 第四章 靜止法ノ事

- 第一節 正體靜止法ノ事
- 第二節 變體靜止法ノ事
- 第五章 反覆進行ノ事
 - 第一節 屬和絃的反覆進行ノ事
 - 第二節 中和絃的反覆進行ノ事
 - 第三節 倒行反覆進行ノ事
 - 第四節 單行反覆進行ノ事
 - 第五節 集合反覆進行ノ事
 - 第六節 不規則反覆進行ノ事
- 第六章 特例ノ事
 - 第一節 用脚音的和聲ノ事

- 第二節 增六ノ和絃ノ事
- 第三節 半成轉調ノ事
- 第四節 八音ノ規則ノ事
- 第五節 半音階的轉調ノ事
- 第六節 四分音階的轉調ノ事

○卷之四

- 第四編 拍子論 自第五百一條至第七百條
- 第一章 強聲ノ事
 - 第一節 單純小節ノ事
 - 第二節 集合小節ノ事
 - 第三節 混合小節ノ事

第四節 增聲ノ事

第二章 樂句ノ事

第一節 單純樂句ノ事

第二節 集合樂句ノ事

第三章 結韻ノ事

第四章 中節ノ事

第一節 正規中節ノ事

第二節 不規則中節ノ事

第三節 縫合中節ノ事

第五章 大節ノ事

第一節 正規大節ノ事

第二節 不規則大節ノ事

第三節 縫合大節ノ事

第四節 接續節ノ事

第六章 段落ノ事

第一節 主和絃的段落ノ事

第二節 屬和絃的段落ノ事

第三節 縫合段落ノ事

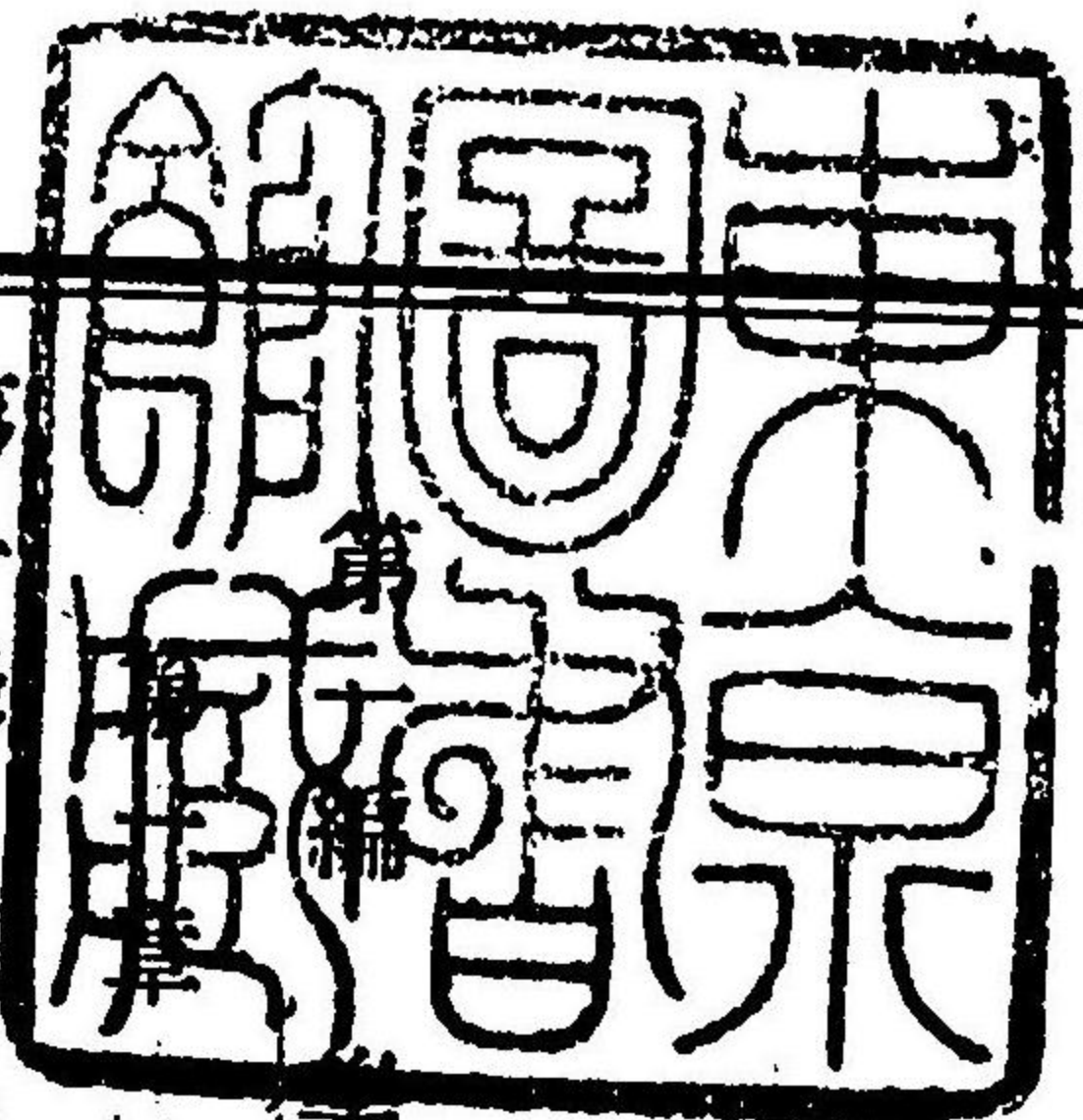
第四節 結尾段落ノ事

計四編七百條

樂典總目次畢

215

樂典卷之一



樂譜論
第一編
第一卷
譜表ノ事

第一條 層疊平行ニ布設シタル

水平ナル五線ハ之ヲ譜表ト爲
ス是レ音符ヲ排記シテ樂譜ヲ
成ス所以ノモノナリ如シ

ジョンガルコット 原著
神津 元 譯述
神津 專三郎 校訂

第一圖



符首ハ線上及
ビ線間ニ置ク

第二條 譜表

ノ線及ビ其

間ハ下ヨリ

上ニ數ヒ最

下ヨリ最上

ニ至ル

第二圖



置クヲ法トス符尾ハ上向セシムルモ下向セシムルモ實際ニ於

各線及ビ各間ヲ以テ一度ト爲
ス故ニ譜表ニ九度アリ是レ五
線四間ヲ總計セルモノナリ

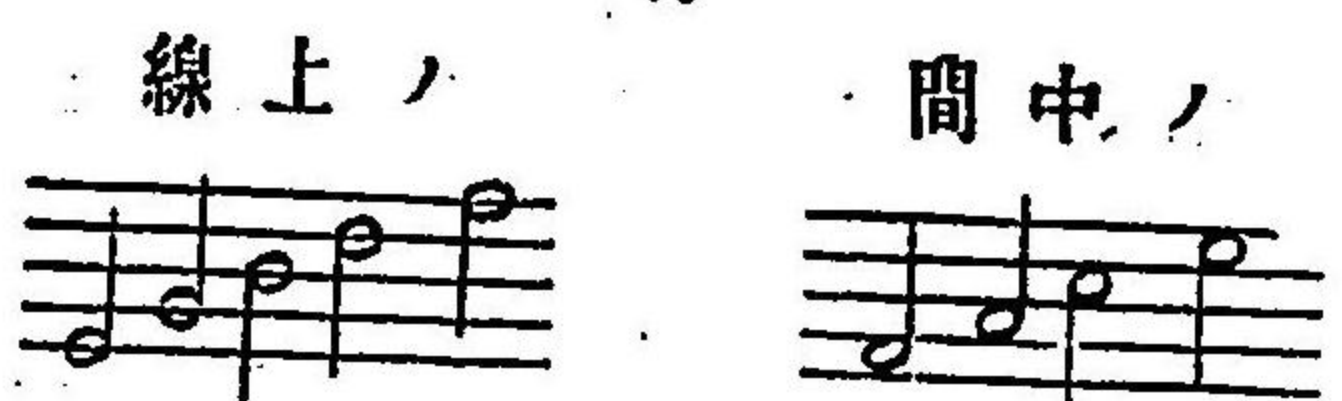
第三條 符ハ通常符首符尾ノ二
部ヲ以テ成ル

符首ニ黑白ノ二種アリ常ニ之
ヲ線ノ正上若クハ間ノ正中ニ

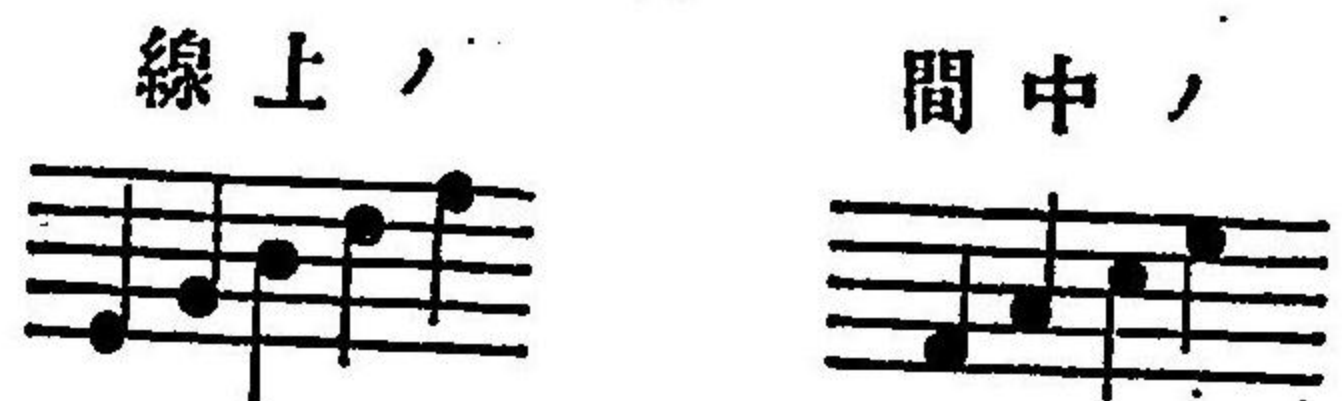
テ更ニ碍ゲナシ

第三圖

白符



黒符



第四條 九度

餘ヲ要スル

并ハ譜表外

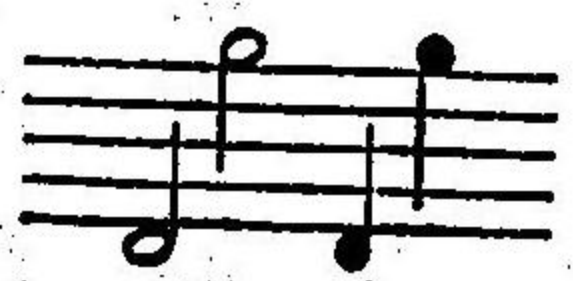
上下ノ間ヲ

用フ則チ更

ニ二度ヲ得

本ノ如シ

第四圖



第五條 更ニ以上ノ度数ヲ要スルハ譜表外上下ニ短線ヲ増設シ符ヲ此線上ニ置ク左ノ如シ

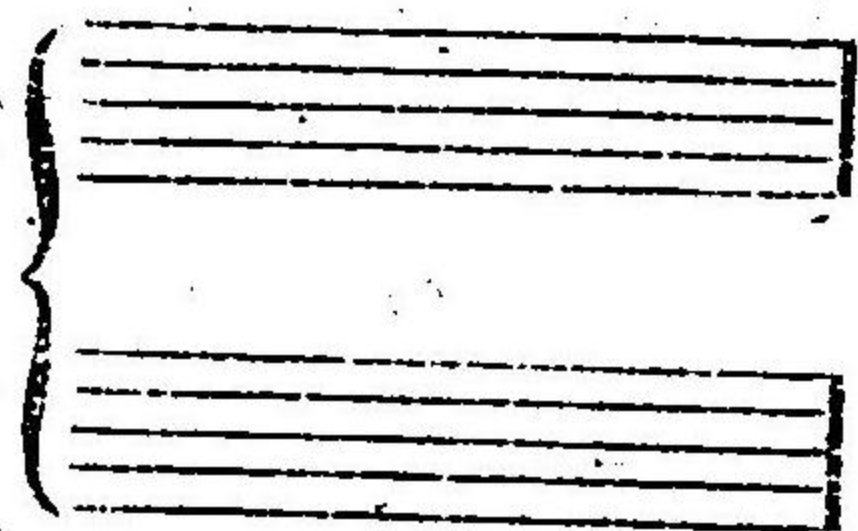
第五圖



斯ノ如クシテ上下ニナホ數線ヲ増設スルモ碍ゲナシ故ニ譜表ノ度ハ自由ニ増加スルヲ得第六條 有鍵樂器ニ用フル樂譜ニ於テ左右兩手ニ譜表ヲ要スルハ鈎線ヲ以テ二個ノ譜表ヲ連合シ其上ナルヲ右手ニ用ヒ下ナルヲ左手ニ用フルモノ

トス左ノ如シ

第六圖



譜表二個以上連合シタルモノハ同時ニ演奏スル高中低等ノ諸聲音ニ屬スル樂譜トス此ノ如ク數譜表ヲ連合シタルモノハ之ヲ名ケテ連合譜表トイフ

第二章 音部記號ノ事

第一節 音部記號總論

第七條 音樂上ニ用フル聲音ノ符ハ名クルニイロハノ首句ノ七

文字ヲ以テス左ノ如シ

イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト

呂律ノ旋行此七音ニ踰エルキハサラニ(イヨリ始メテ之ヲ複用スベシ

第八條 音部ノ記號ハ譜表ノ度

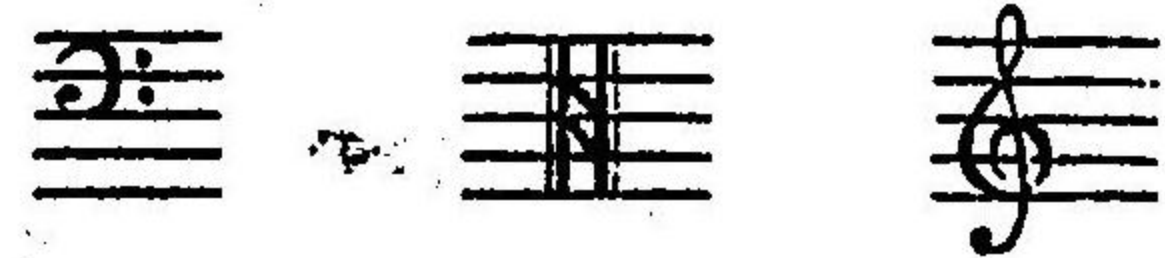
第七圖

名ヲ指定スル爲表首ニ置クベ

キ文字ニ易フルモノニテ常ニ

線上ニ置ク通例之ヲ三種トス

左ノ如シ



之ヲ名
ケテ低
音部記
號中音
部記號
最高音
部記號

トイフ

第九條 樂音ハ音度ノ差等ヲ以テ之ヲ大別シテ高低二種ト爲シ

其高キモノハ最高音部記號ヲ有スル譜表ニ置キ之ヲ高音部ト

名ケ其低キモノハ低音部記號ヲ有スル譜表ニ置キ之ヲ低音部

ト名ク

第十條 低音ヨリ高クシテ高音ヨリ低キ音ハ之ヲ名ケテ中音ト

イフ中音ハ中音部記號ヲ有スル譜表ニ置ク

第十一條 以上三種ノ記號ハ相距ルヲ各五度ニシテ即チ中音ハ
低音ノ終リテ高音ノ始ルトコロニ在リ最高音部記號ハ此ヨリ
上第五度ニシテ低音部記號ハ此ヨリ下第五度ニ在リ

第八圖



第十二條 譜表ノ度ハ總テ音部ノ記號ニ屬
セリ故ニ部名ハ記號ヲ有スル線ヨリ起リ
而シテ此記號ハ(ハ)(ト)三文字ノ代號ニ過
ギザルモノトス

第二節 最高音部即チ(ト)字記號ノ事
第十三條 (ト)字記號ハ之ヲ譜表ノ第二線止ニ置ク此線上ノ符ハ
總テ(ト)ト爲シ他ノ諸符ハ之ニ因テ之ヲ名ク蓋シ此第二線ハコ
ノニ主號線ナルヲ以テナリ

第九圖



(ト)號 音部 譜表 ノ 九 度 ハ 女 ノ 如 シ

第十圖



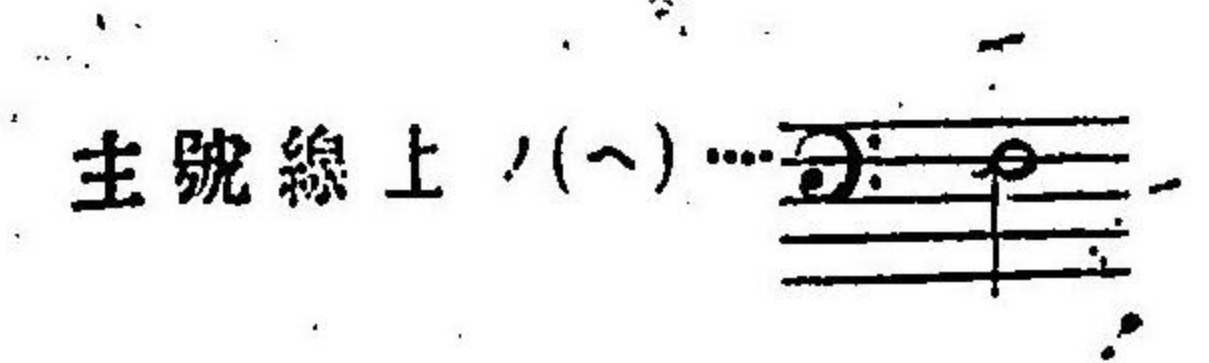
第十四條 譜 表外上下ノ 度ハ女ノ如シ



此他ニ増加シタル度ノ各ハ上下ヲ間ハズ皆此ニ準ズ
第三節 低音部即チ(ハ)字記號ノ事

第十五條 (へ)字記號ハ譜表ノ第四線上ニ置キ以テ二個ノ點ヲ第三及ビ第四間ニ分布ス此線上ノ符ハ總テ(へト爲シ他ノ諸符ハ之ニ因テ之ヲ各ク蓋シ此第四線ハコ、ニ主號線ナルヲ以テナ

第十二圖



(へ)號

音部 譜表 ノ九 度ハ 本ノ 如シ

第十三圖



第十六條

譜

表外上下ノ 度ハ本ノ如シ

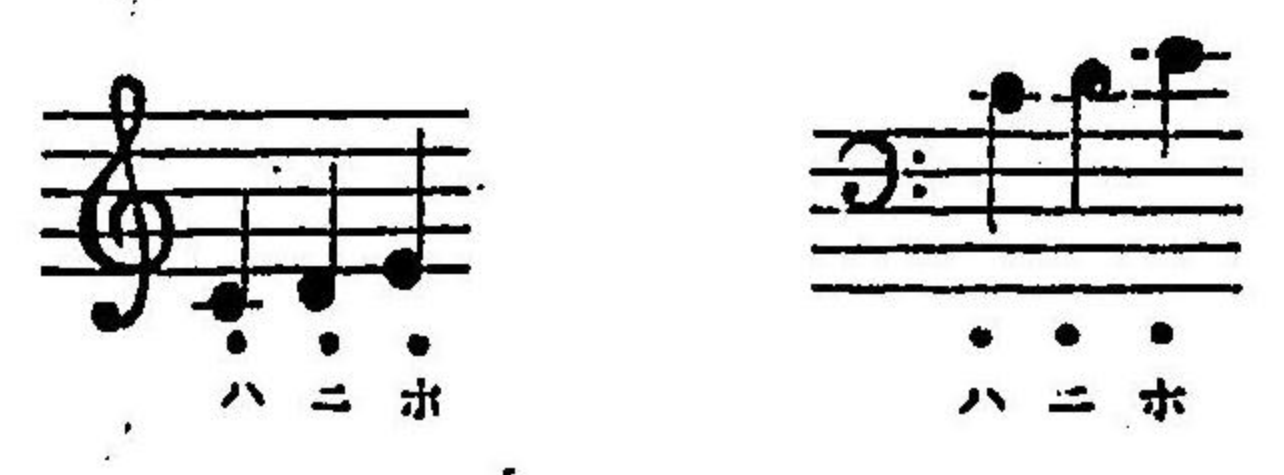
第十四圖



下各ニハ...

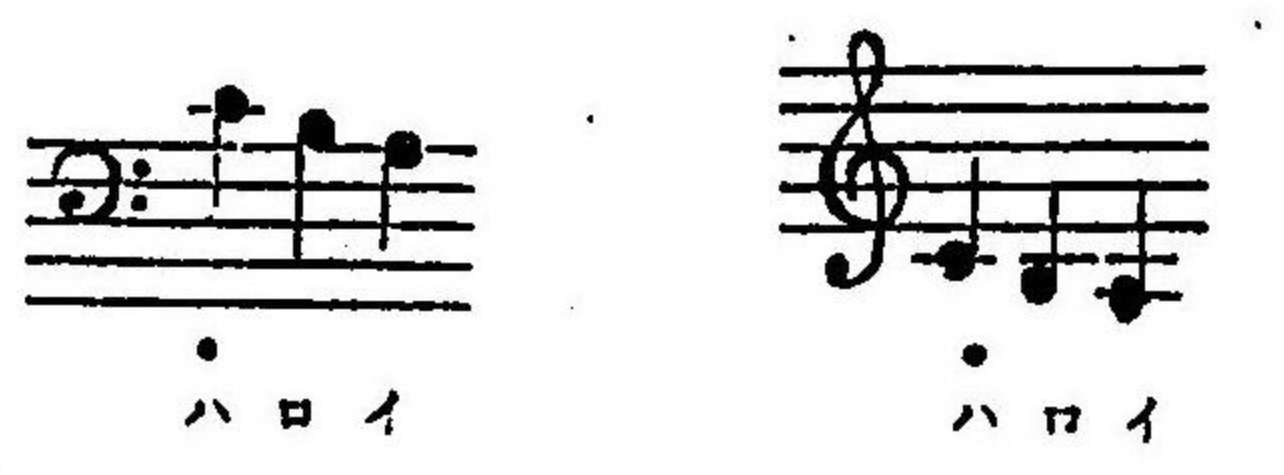
第十七條 (ト)號譜表ノ下加線ト(へ)號譜表ノ上加線トニ於ケルハ(ハ)符ハ全ク同音ナリ故ニ(ト)號譜表下部ノ音ヲ(へ)號譜表ニ於テ記スルヲ得

第十五圖



マタ(へ)號譜表上部ノ音ヲ(ト)號譜表ニ於テ記スルヲ得

第十六圖



第十八條 故ニ同一ナル音ヲ(へ)(ト)貳號ノ譜表ニ於テ記スルヲ得

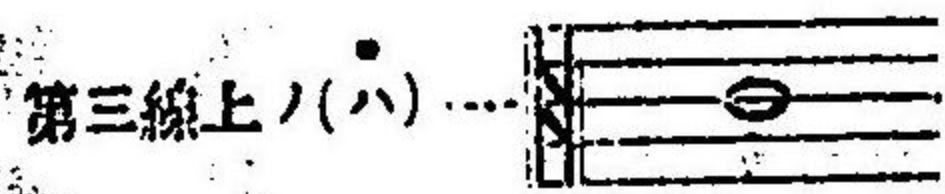
第十七圖



第四節 第三線上(ハ)字即チ中音部記號ノ事

第十九條 (ハ)字記號第三號線上ニ在ル
 名ク
 中音部譜表ノ九度
 ハ左ノ如シ

第十八圖



第十九圖



此等ハ第十八條ノ例ニ於テ(ト)(ヘ)貳號ノ譜表
 ヲ以テ示シタル音ト符合セリ
 此音部ハ「アルト」又ハ「コントラルト」「トイフ」
 上二線ハ(ト)號譜表ノ下二線ヲ借用シ下二
 線ハ(ヘ)號譜表ノ上二線ヲ借用スルモノニ
 テ中心ノ一線ハ(ト)號譜表ト(ヘ)號譜表トノ
 中間ニ増設シタル一線ト同シ

第二十條 中音部譜表ハ唱歌ニ於テ男子ノ高音樂器ノ演奏ニ於
 テ「ビオラ」即チ中音胡弓ニ用フルモノト爲ス

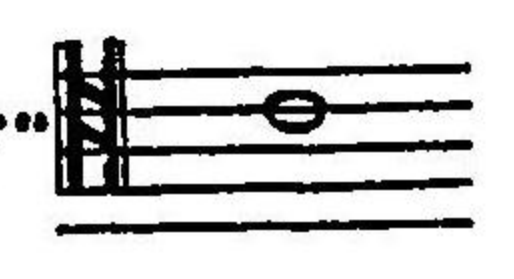
第五節 第四線上(ハ)字即チ次中音部記號ノ事

第二十一條 (ハ)字記號第四線上ニ在ルキハ之ヲ次中音部記號ト名ク

第二十圖

次中音部譜表

第廿一圖



第四線上ノ(ハ)

ノ九度
ハ左ノ
如シ



ニハイハホホトロニ

線ト爲シ(ト)號譜表上部ノ三線ヲ借りテ下部ノ三線ト爲シ第

此等ノ音ハ第十五條ニ示ス(ハ)號譜表ニ於ケル音ヨリ高キヲ五度ナリ此音部ノ譜表ハ(ト)號譜表最下ノ線ヲ借りテ最上

四線ハ(ト)號譜表ト(ハ)號譜表トノ中間ニ増設シタル一線ト同

第二十二條 次中音部譜表ハ唱歌ニ於テ男子ノ中音樂器ノ演奏

ニ於テ其曲低音部ヲ踰ユルキ「ピオロンセロ」即チ低音胡弓ニ用フルモノト爲ス

第六節 第一線上(ハ)字即チ高音部記號ノ事

第二十三條 (ハ)字記號

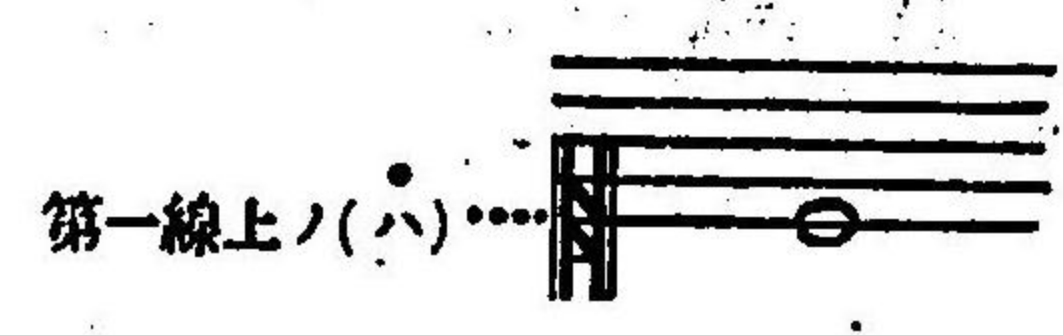
高音部譜表ノ九

第一線上ニ在ルキハ

第廿二圖

度ハ左ノ如シ

之ヲ名ケテ高音部記號トイフ



第一線上ノ(ハ)

第廿三圖



此等ノ音ハ第十三條ニ示ス(ト)號譜表ニ於ケル音
ヨリ低キヲ三度ナリ

高音部譜表ハ(ト)號譜表ノ下部四線ヲ借リテ上
部四線ト爲シ第一線ハ(ト)號ト(ヘ)號トノ中間ニ
増設シタル一線ト同シ以上ニ示ス高音中音次
中音ナルハ(ハ)號ノ三種ト(ヘ)號即チ低音トヲ合セ
テ通常合奏ノ四正音ト爲ス

第二十四條 高音部譜表ハ婦人及ビ小兒ノ聲音ニ用ヅルモノト
ス但シ以太利及ビ日耳曼ニ於テハ洋琴ニハ必ズ之ヲ用ヒ決シ
テ他號ノ譜表ヲ用ヘズ且(ト)號ノ如キハタゞニ胡弓笛等ニ歸セ

リ

[此高音部譜表ニ表記スベキ音ハ都テ之ヲ(ト)號譜表ニ記シ通
常等シク之ヲ高音ト爲スヲ近代ノ例トス]

第七節 古代用次高音上低音及ビ舊高音部記號ノ事
第二十五條 古代ノ唱歌譜ニ於テハ(ハ)字記號ヲ第二線上ニ置キ
之ヲ次高音部記號ト爲セリ

第廿四圖



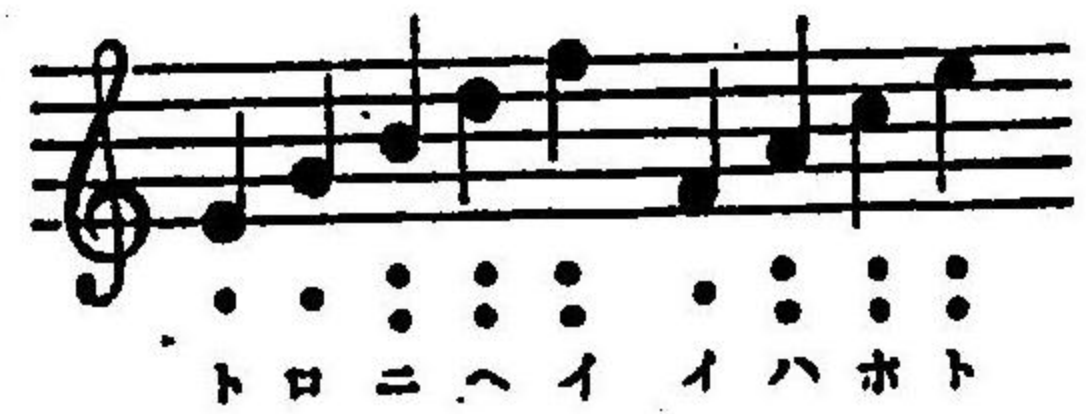
第二十六條 古代ノChurch用樂譜ニ於テハ
(ヘ)號ヲ第三線上ニ置キ之ヲ名ケテ上低
音部記號トイヘリ

第廿五圖



第二十七條 佛蘭西 第廿六圖

古代ノ樂譜ニ於テ
ハ(ト)字記號ヲ第一
線上ニ置キ之ヲ名
ケテ最高音部記號
トイヘリ



以上三
種ノ記
號ヲ此
ニ附述
シタル
所以ハ

譜表ノ度名ハ主號線ノ位置ニ屬シ而シテ此三記號ハ即チハ
ヘトノ三文字ニ外ナラザル理由ヲ初學ノ徒ニ知ラシメンガ
爲ナリ上二種ノ記號ハ千七百七十四年刊行「ペー・ドルマチニ

「氏和聲論ニ據リ下一種ハ千七百六十四年刊行「ベシジ」氏
音樂論ニ據ル

第三章 音符ノ事

第一節 音符總論

第二十八條 音符ハ音樂上ニ用フル聲音ヲ表示シ且其高低長短
ノ別ヲ詳カニスルモノナリ其聲音ノ高低ヲ分ツ性質ハ之ヲ符
ノ調子トイヒ其長短ヲ別ツ性質ハ之ヲ符ノ拍子トイフ
第二十九條 七文字ヲ以テ名クル音ノ一列ニ更ニ首ノ一音ヲ増
加スルハ其數八音ト爲ル故ニ之ヲ總稱シテ八音トイフ然シ
テ此八音ナル語ハマタ八音一列ヲ成ス音列ノ兩端ニ在ル第一

及ビ第八ノ二音ニノミ用フルコアリ

往時ハ七音ヲ以テ一音列ト爲シ之ヲ總稱シテ七音トイヘリ

セブチナリス

然レモ第八音ナクシテハ呂律ノ旋行上ニ於テ不完全ナルト

コロアルヲ以テ之ヲ加ヘ八音一列ト爲シ之ヲ總稱シテ八音

ト爲スニ至レリ(千六百三十六年刊行「バタ」氏音理論第十三

葉)

第三十條 七文字ノ諸音列

ハ

第三十一條 此等ノ音ハ

中ニテ上行下行ヲ論ゼズ

イロ

風琴洋琴等ニ於テハ長

(ハ)ニ始リ(ハ)ニ終ル一音列

ヘト

鍵ヲ彈シ以テ之ヲ演セ

ヲ以テ最美ナルモノトス

ニホ

リ長鍵ノ名ハ短鍵ト相

ニホ 関係スル位置ニ就テ知

ルヲ易シトス蓋シ長鍵ハ白クシテ短鍵ハ黒シ

第三十二條

全鍵盤ニ於テ短鍵ハ二個ト三個ト交互ニ組合ヲ成

セリ而シテ二個ノ組合ヲ成ス短鍵ノ間ニ在ル長鍵ハ盡ク(ニ)ト

ス此(ニ)ヨリ起算スレバ他ノ六文字ハ容易ニ之ヲ發知スルヲ得

ベシ即チ此(ニ)ノ直チニ右側ニ在ル長鍵ハ(ホ)ニシテ其直チニ左

側ニ在ル長鍵ハ(ハ)ナリ他ハ推シテ知ルベシ

短鍵二個ノ組合ハ(ハ)(ニ)(ホ)ノ三音ニ包括セラレ(ヘ)(ト)(イ)(ロ)ノ四

音ハ短鍵三個ノ組合ヲ包括セリ

第三十三條

鍵盤ノ正中ニ最近ナル(ハ)ハ即チ中音部號ノ(ハ)ニシ

テ是ヨリ右方ニ向テ初メテ得ル(ト)ハ(ト)號ノ(ト)ニ當リ左方ニ向

テ初メテ得ル(ヘ)ハ(ヘ)號ノ(ヘ)ナリ

音鍵ノ數ハ樂器ノ大小ニ由テ異ナルトイヘ其正中ニ最近ナルトハ必ズ之ヲ(ト)號ノ(ト)ト爲ス

第三十四條 日耳曼ニ於テハ同名異音ノ符ヲ區別セシムガ爲日耳曼作譜法ト名クル一種ノ方法ヲ設ケ以テ此ノ如キ符名ヲ確定セリ此方法ノ巧妙ニシテ有益ナルハ辨ヲ埃タズト雖モ其未ダ世ニ普及セザルハ遺憾トイフベシ

日耳曼作譜法ハ千五百年代ノ發明ニ係ルモノナリ其標本ハ「ラキスフォルド」サピレ「文庫」ニ屬スル千六百四年出版ノ「リプシ」府モノヨルダム、アンドリ「ラインハルダイ」ト題スル雜誌中ニ在リ

第三十五條 此日耳曼作譜法ニ據レハ鍵盤ニ於テ短鍵ノ二個ト

三個トノ二組ヲ包括シタル音列ノ最下ナルヲ以テ大字八音ト爲シ之ニ附スルニ大文字ヲ以テセリ左ノ如シ

第廿七圖



第三十六條 次

ノ音列ヲ小字八音ト爲シ之ニ附スルニ小文字ヲ以テセリ本ノ如シ

第廿八圖



第三十七條 次ノ音列ハ(ハ)號ノ主號線ニ起リ(ト)號音部ニ涉ルモ

ノニテ之ニ附スルニ一點ヲ帶ブル文字ヲ以テシ名ケテ單點八音ト爲ス

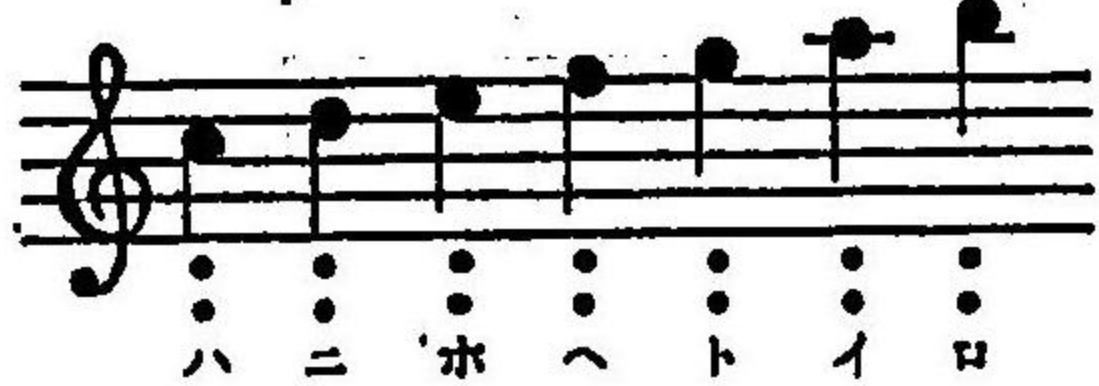
第廿九圖



第三十八條 通常

用フル結尾ノ音列ハ之ヲ複點八音ト爲ス

第三十圖



第三十九條ニ大字八音以下ニ屬スルニ三ノ符ハ之ニ附ズルニサ

ラニ大ナル文字ヲ以テシ名ケテ至低音トイヒ又(ト)號ノ上ニ在ル音列ハ之ヲ名ケテ三點八音トイフ

第四十條 上述スル作譜法ニ據レバ盡ク等一ナル長サノ音ヨリ

成ル曲例ハ譜表モ音部ノ記號モ用ヒズシテ之ヲ書スルヲ得ベシ今此方法ヲ約言センニ

- (ヘ)號ノ主音ハ小字(ヘ)ナリ
- (ハ)號ノ主音ハ單點(ハ)ナリ
- (ト)號ノ主音ハ單點(ト)ナリ

第四十一條 此等ノ八音ノ下行スル音列ヲ(ト)號譜表ニ記スルハ左ノ如シ

式
關白天
明
ハ
ニ
ホ
ヘ
ト
イ
ロ

第三十一圖



(へ)號譜表ニ
於テハ左ノ
如シ

第三十二圖



第四十二條 此等ノ音ハ管ヲ唱歌ニ於テハ「^ウト」「^ニ」「^ミ」「^シ」

(三)「^フ」「^ソ」「^ラ」「^ニ」「^ハ」ノ六語ヲ以テセリ之ヲ階名トイフ此階名ハ千零二十二年ノ頃ダスカニ「アレツツ」ノ僧侶ナル「ギド」氏ノ發明ニシテ其門弟子ガ名ケテ六連音ト爲セシトコロノモノナリ

第四十三條 佛蘭

西ニ於テハ此六連音ヲ存シ加フルニ「^シ」「^ハ」ノ一語ヲ以テシ之ヲ七連音ト爲セリ

Doh Say Me Fas Sol Bah Se Doh
[Musical notation with notes and stems]
一 二 三 四 五 六 七 一

此「^シ」ヲ増加シタル者ハ「^レ」「^メ」レ氏ナリ

第四十四條 以太利ニ

於テハ此發音ヲシテサラニ温和流暢ナラシメンガ爲「^ウト」ヲ變

シテ「ド」ト爲シタリ

- 「ド」 一
- 「シ」 七
- 「ラ」 六
- 「ソ」 五
- 「フ」 四
- 「ミ」 三
- 「レ」 二
- 「ド」 一

第四十五條

此八音ノ音階ハ初メ之ヲ「ガム

ト」トイヘリ蓋シ此「ガムト」ナル語ハ低
 音譜表ノ第一線上ニ置キタル希臘語ノ「ガ
 ムマ」即チ日耳曼作譜法ノ大字「ト」(ゲ)ノ字
 ト「ギド」氏ノ六連音ノ首字ナル「ト」ノ字
 トヲ合セテ構成シタル語ナリ

昔魯細亞有名ノ音樂家「グラウシ」氏ノ發

明シタルハ「ダ」「ミ」「ニ」「ボ」「ツ」「タ」

「ベ」ノ七語ナリ

第二節 音符ノ調子ノ事

第四十六條

符ノ調子ハ符ト符ト相對スル關係上ヨリ起リ其相

距ル距離ニ屬セリ然レハ音階ノ度ハ其距離ニ二種アリ甲ノ距

離ハ乙ノ距離ニ倍セリ故ニ甲ヲ一全音トイヒ乙ヲ半音トイフ

第四十七條

有鍵樂器ノ鍵盤ニ於テ二長鍵ノ間ニ短鍵ノナキト

コロアリ此二長鍵ノ音差ハ半音ナリ二長鍵ノ間ニ短鍵ノ在ル

アリ此二長鍵ノ音差ハ一全音ナリ則チ「ロ」「ハ」ノ間及「ホ」「ヘ」ノ間

ハ何レモ半音ノ差ナリ「ハ」「ニ」ノ間、「ホ」「ト」ノ間、「ト」「イ」ノ間及

「イ」「ロ」ノ間ハ何レモ一全音ノ差ナリ故ニ八音ノ一列ヲ成ス各

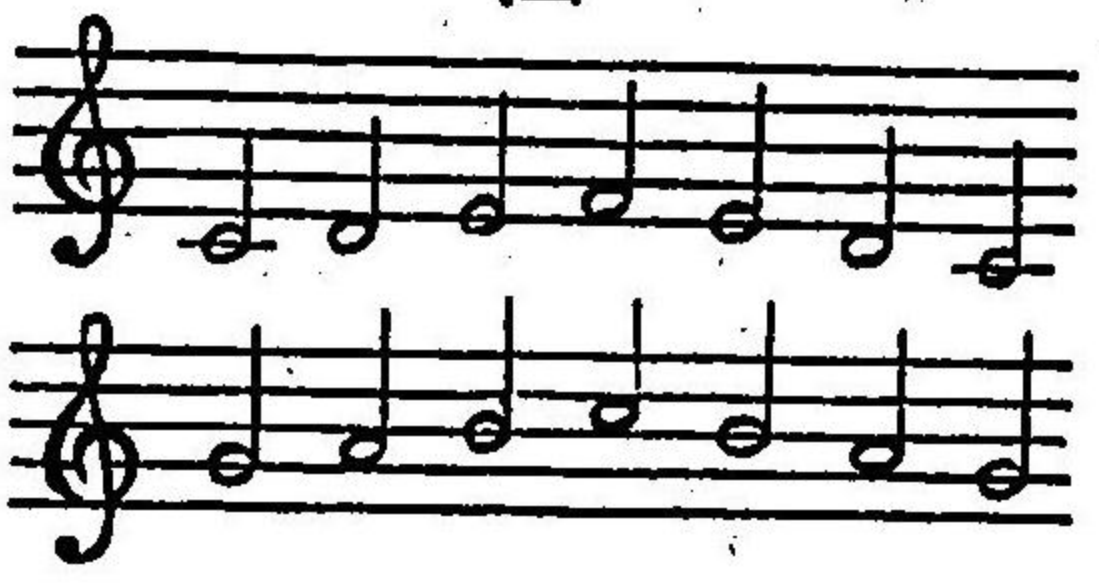
音列中ニ一全音ナルモノ五個半音ナルモノ二個アリ

第四十八條

茲ニイフ八音ノ一列云云ノ音ノ字ト一音半音云云

ノ音ノ字トハ大ニ意義ノ異ナルトコロアリ之ヲ辨明セザル可
 ラズ抑八音ノ音ハ耳ニ聞ク眞ノ聲^{シヤウ}音ニシテ即チ之ヲ譜表上ニ
 表示スル所以ノ記號ナル符ニ就テイフ語ナリ一音云云ノ音ハ
 イロハ中ノ連續シタル二字(例ヘハイ)(イ)(ロ)或ハ(ハ)(ニ)ノ如シヲ以テ
 其名ト爲シ而シテ樂器ニ於テハ其間ニ一ノ短鍵ヲ有スル二音
 ノ間ノ距離ニ就テイフ語ナリ即チ(イト)(ロト)ノ間ハ其距離一音
 ナリ故ニ(イ)ハ(ロ)ヨリ一音低クシテ(ロ)ハイヨリ一音高キガ如シ
 第四十九條 半音モ亦然リ即チ(ロト)(ハト)ノ間ハ半音ナリ故ニ(ロ
 ハ)ヨリ低キ^シ半音ニシテ(ハ)ハ(ロ)ヨリ高キ^シ半音ナリ是ニ於
 テ一音半音云云ノ音ノ字ハ八音一列云云ノ音ノ字ト異ナルコ
 太ダ分明ナリ若シソレ然ズ^ル(ロ)ノ如キハ一音并ニ半音トセザ

ルベカラザルモノニ似タリ何トナレバ(ロ)ハイヨリ一音高クシ
 テ(ハ)ヨリ半音低キヲ以テナリ
 第五十條 (ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)四音ヲ以テ(ト)(イ)(ロ)(ハ)四音ニ比較スル并ハ此
 各四度ノ距離ハ何レモ二全音及ビ一半音ヨリ成ルヲ詳カニセ
 リ故ニ甲四音ヨリ成ル音調ハ乙四音ヨリ成ル音調ト全ク等一
 ナルモノトス



第三十三圖

古代ハ此四音ヲ名ケテ四連音ト
 イヘリ而シテ「ラモ」氏ノ説ノ出
 シヨリマタ大ニ之ヲ興復セリ近
 代音樂家ノ過半トイヒ殊ニ「ホー
 ルドン」氏ノ如キモ八音ヲ以テ二

個ノ四度ヨリ成ルモノト爲スノ必要ナルヲ説ケリ
 第五十一條 此二個ノ四度ヲ合併スレバ則チ(ハ)ノ音主音ト爲ル
 ヲ以テ(ハ)調ト名クル一ノ調ヲ成セリ此音階ノ下行スル一列ハ
 八鐘ノ普通音調ト符合セリ

第三十四圖

(ハ)調上行



(ハ)調下行



第五十二條 此等ノ音
 ノ耳ニ感ズル情況ハ
 半音ノ位置ニ屬セリ
 其所以ハ(ニ)(ホ若クハ
 他ノ好調ヲ生ゼザル
 部分ヨリ始メテ八音

ヲ彈演スルハハ之ヲ詳カニスベシ

第三十五圖



第五十三條 然レ 第三十六圖

凡八音ノ一列ニ
 於テ其位置ノ高
 低ヲ問ハズ同文
 字ノモノハ必ズ
 同音調ヲ生ズベ
 シ



此音列ニ於テハ半音ノ距離上行スル第三第四ノ間ト第七第八

ノ間トノ二ヶ所ニ在リ

第五十四條 風琴等ニ於テ長鍵ヲ以テ演スル音列ハ之ヲ自然音ソレゼン

階ト爲シ以テ其長短鍵ヲ混用スル半音列即チ人工音階ト區別アトクシテソレズニシテ

セリ

第五十五條 階名ノ音列ニ於テハ(三)(四)ノ間ト(七)(一)ノ間トノ距離

ハ半音ニシテ他ノ距離ハ孰レモ皆一音ナリ

第五十六條 旋律即チ音符ノ調子論ニ係ル全主義ハ實ニ此二個

ノ半音ノ活動ト音階ニ於ケル其位置トヲ詳カニスルノ一點ニ

ノニ屬セリ故ニ音樂ヲ學ブ者最モ此ニ注意セザルベカラザル

ナリ

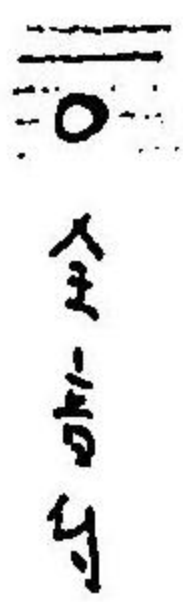
第三節 音符ノ拍子ノ事

第五十七條 一個ノ符ヲ以テ表示スル聲音ノ長短即チ一符ノ拍

子ハ其特別ナル形狀ニ詳カナリ而シテ其區別ノ最モ見易キモ

ノハ符首ノ黑白符尾ノ有無尾鈎ノ多少ニ在リ(第三條ヲ參考セ

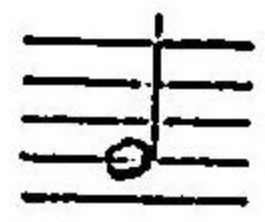
ヨ)



音符ニ重ナルモノ三種アリ即チ二分符四分符八分符是ナリ

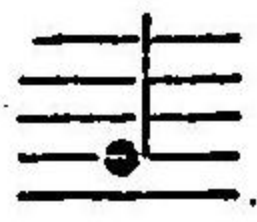
第五十八條 二分符ハ符首白クシテ符尾鉛直ナリ左ノ如シ

第卅七圖



第五十九條 四分符ハ符首黒クシテ符尾鉛直ナリ左ノ如シ

第卅八圖



而シテ聲音ノ長サハ二分符ノ半長ナリ

第六十條 八分符ハ符首黒クシテ尾ニ一鈎アリ左ノ如シ

第卅九圖



此ヲ二分スレバ十六分符二個ト爲リ四分スレバ三十二分符四個ト爲ル

第六十一條 以

第四十圖



二分符一個 四分符二個 八分符四個

第六十二條 サラニ八

分符ヲ小分スルキハ

左ニ擧ル二種ノ符ト

爲ル

十六分符ハ其形八分

符ニ似ルトイヘ尾

ニ二鈎ヲ有シ而シテ拍子ハ八分符ノ半長ニ當ル

第四十一圖



三十二分符ハ尾ニ三鈎アリ而シテ拍子ハ八分符ノ四分一ニ當ル

第四十二圖



之ヲ四分符ニ比較スレバ左ノ比例ヲ成セリ

第四十三圖

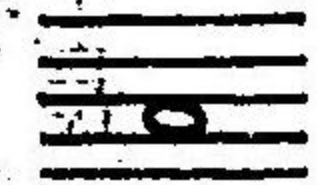


近代撰ノ樂譜ニ三十二分符ヲサラニ
二分シテ四鈎ヲ附シマタサラニ二分
シテ五鈎ヲ附シタル符モアリ

第六十三條 緩徐ナル樂曲殊ニ寺院用ノ

樂曲ニ於テハ一音符及ビ二音符ト名ク
ル更ニ拍子ノ長キ二種ノ符ヲ用ヘリ
一音符ハ尾ノナキ白符ニシテ聲音ノ長
サハ二分符ノ倍四分符ノ四倍ナリ

第四十四圖



二音符ハ一音符ノ左右ニ鉛直ナル平行線ヲ附シタルモノニシ
テ聲音ノ長サハ一音符ノ倍二分符ノ四倍四分符ノ八倍ナリ

第四十五圖



白符三種ノ比例ハ左ノ如シ

第四十六圖



第六十四條 近代普通用ノ白黒二
種ノ符ハ左ノ比例ヲ成セリ

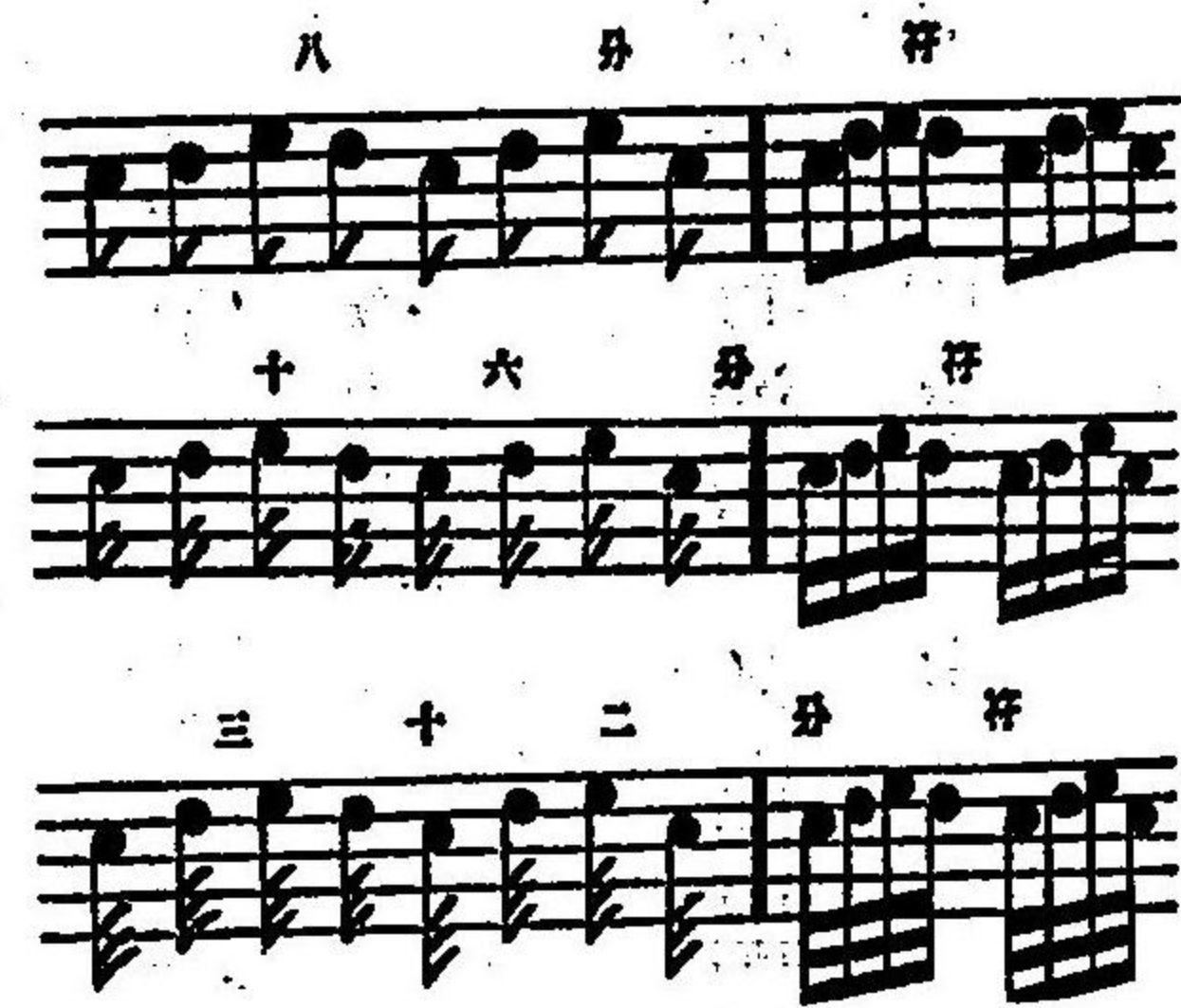
第四十七圖



第六十五條 符

尾ニ鈎アル符
ハ二個三個四
個等ノ數ヲ以
テ之ヲ連合ス
ルヲ得ベシ

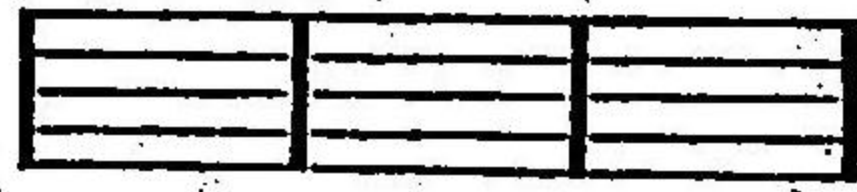
第四十八圖



此ノ如ク數符ヲ連合スルハタゞニ樂譜ヲ書スルニ便ナルシミ
テラズナホ符ノ拍子ヲ視別スルニ便ナルトコロアリ且唱歌ノ

際語句ニ據テ唱別スル符ヲ區分スルニ至便ナル方法トス
第六十六條 樂曲ハ何レモ分ツテ拍子ノ等一ナル數個ノ部分ト
爲ス此一部分ヲ小節ト名ク小節ハ譜表ヲ上ヨリ下ニ貫キタル
縦線ヲ以テ之ヲ區分セリ故ニ二縦線ノ間ニ在ル符ハ計シテ之
ヲ一小節トス

第四十九圖



第六十七條 小節ハ何レモ譜表ノ首ニ記シ

タル拍子ニ符合スル某數ノ符ヲ包有セザ
ルベカラズ例ヘバ普通拍子ニ於テハ各小
節ハ一音符若クハ旋律ノ便宜ニ因リ二分
符四分符八分符等ヲ以テ此一音符ニ相當

スル符數ヲ包有スルガ如シ然リ而シテ全一小節ノ拍子ハ其諸符各自ノ拍子ト符數ノ多少トニ關セザルモノニテ全一小節ノ拍子ハ其包有スル符ノ總計ヲ等分スルヲ以テ之ヲ確知スルヲ得ベシ蓋シ各小節ハ一進動ノ連續スル其間盡ク平等均一ナル拍子ヲ包有セザルベカラザルヲ以テナリ

第六十八條 拍子ヲ大別シテ普通即チ平等拍子及ビ三進即チ不
等拍子ノ二種ト爲ス平等拍子ハ二、四若クハ八ニ由テ進ミ不
拍子ハ三若クハ六ニ由テ進メリ

日耳曼ニ三種ノ拍子アリ第四編拍子論中ニ詳ナリ

第六十九條 第一ハ普通即チ平等拍子ニテ二分符ハ三個四分符ハ四個
平等拍子ハ各小節ニ一音符ハ一個二分符ハ三個四分符ハ四個

八分符ハ八個若クハ其他此ニ相當スル拍子ヲ包有セリ平等拍子ハ譜表ノ首ニ於テ(ト)字記號ノ次ニ半圓形ヲ置キ之ヲ示ス左ノ如シ

(「ハンデル」氏撰「シ、セ、コンカトリング」名曲)



第五十圖

第七十條 縦線ヲ以テ貫キタル半圓形ハサラニ急カナル進動ヲ指示スルモノニテ之ヲアラブレ—プ(二音符一)急拍子トイフ何トナレバ此半圓形ヲ記シタル樂譜ハ往時各小節ニ二音

符一個相當ノ拍子ヲ存セシヲ以テナリ

第五十一圖

(「オルデンド、ギボン」氏撰「オー、クラッパザイ、ハンド」)

然リト雖モ今 第五十二圖

時ハ此小節ヲ (「ハンデル」

二分シテ一小 氏撰「ソ」

節中ニ一音符 ル」

ヲ存スルコト

爲レリ



第七十一條 他ノ拍子ノ小節ハ總シテ譜表ノ首ニ於テ疊書シタル

ル數字ヲ以テ之ヲ指示ス

2/4ト疊書シタル4ノ字 第五十三圖

ノ上ノ2ノ字ハ各小節ニ (「ブレール」氏撰「日耳曼ノ讚歌」)

四分符二個若クハ二分符

一個ナルコトヲ指示ス是レ

即チ一音符ノ半ナルヲ以

テ之ヲ名ケテ半拍子トイ

フ (ハーフタイム)



第七十二條 譜表ノ首ニ數字ヲ以テ指示シタル最モ普通用ナル小節ハ左ノ如シ

12	8	9	16	9	8	6	8	6	4	3	8	3	4	3	2

此等ノ二文字中下ニ在ルハ一音符ヲ小分符ニ分チタル其分母ヲ示シ其上ナルハ此分母ヲ以テ分チタル小分符ノ一小節中ニ現在スル總計ヲ示ス即チ3/2ハ二分符三個3/4ハ四分符三個3/8ハ八分符三個ヲイフ等左ノ如シ

第七十三條 某符ヲ半音延長セント欲スルハ其後ニ一點ヲ加フ例ヘバ二分符ノ後ニ一點ヲ加フルハ其拍子半音増加シニ

3	八分三	3	十六分九
4	四分三	8	
3	四分三	6	八分六
4		8	
3	二分三	6	四分六
4		4	

分符ト四分符トノ二個ヲ合スルカ將タ四分符三個ヲ總計シタルモノト等シキヲ致ス等ノ如シ

第五十四圖



マタ四分符ノ後ニ
一點ヲ加フルキハ
四分符ト八分符ト
ヲ合スルカ若クハ
八分符三個ヲ合ス
ルモノト等シキヲ
致セリ~~左~~ノ如シ

第五十五圖



マタ符ノ後ニ二點ヲ加フルコトアリ然ルキハ則チ其拍子四分ノ三ヲ増加セリ例ヘバ二分符ノ後ニ二點ヲ加フルキハ其拍子四分符三個ト八分符一個トヲ合スルカ又ハ八分符七個ヲ總計スルモノト等シキヲ致ス等ノ如シ

第七十四條 第二 不等拍子

アシメクナル

此拍子中ニ通常用フル三種ノ小別アリ即チ

- 第一 一小節中ニ二分符三個ナルモノ
 - 第二 一小節中ニ四分符三個ナルモノ
 - 第三 一小節中ニ八分符三個ナルモノ
- 第一 各小節ニ於テ一點ヲ帶ブル一音符即チ二分符三個ナルモノハ左ノ如シ

第五十六圖

(ハンデル氏以太利歌集第六十四號)



第五十七圖

(ハンデル)

第二 各小節ニ一點ヲ帶ブル二分 一巻第六
 符即チ四分 十六號
 符三個ナル
 モノハ左ノ如シ



第三 各小節ニ於テ一點ヲ帶ブル四分符即チ八分符三個ナル
 モノハ左ノ如シ

第五十八圖

(同上第二巻第百二十八號)



以上三種ニ於テハ強聲一定ニシテ曲調
 相類似スルトコロアリ殊ニ第二及ビ第
 三ノ如キハ閑カニ之ヲ奏スル所ハ最モ
 相類似スルモノトス

第七十五條 第三 集合平等拍子

シンクレンセン

四分符三個若クハ八分符三個ヲ存スルニ小節ノ間ニ在ル縦線ヲ去リ之ヲ合一シテ一小節ト爲スルハ之ヲ集合平等拍子トイフ蓋シ平等トハ各小節ノ等半ニ分ル、ヨイヒ集合トハ二個ノ不等拍子ヲ合一シタルヨイフナリ

通常用フルトコロノ集合平等拍子ニ三種アリ即チ

- 第一 各小節ニ於テ四分符六個ヲ存スルモノ
 - 第二 各小節ニ於テ八分符六個ヲ存スルモノ
 - 第三 各小節ニ於テ八分符十二個ヲ存スルモノ是ナリ
- 第一 四分符六個ヲ存スルモノ即チ各四分符三個ヲ存スルニ小節ヲ合一シタルモノハ左ノ如シ

第五十九圖

(ハンデル)氏歌集第二卷第二百二十四號

第二 八分符 第六十圖

六個ナルモノ (同上第一)

即チ各八分符 四卷第

三個ヲ存スル 二百八

二小節ヲ合一 十七號



第七十六條 マタ各八分符六個ヲ存スル二小節ヲ集合シテ一小節ト爲スルハ各八分符十二個ヲ存スル複集合小節ト爲リ八分符三個ヲ存スル四小節ト等一ナルモノト爲ル蓋シ此ノ如ク小節ヲ集合シテ從來其間ニ在ル縦線ヲ除去スルキハ樂譜ノ體裁ニ於テ稍異ナルトコロヲ生シ加フルニ曲調緩急ノ度ニ應ジテ拍子ノ取方ニ影響スルトコロアリトイヘ凡小節ノ分立ハ其他ノ事項ニ於テ拍子若クハ調子ノ眞實ヲ變ズル感力ナシ且此不
 等拍子ヲ $12\overline{8}$ 若クハ $6\overline{8}$ ト記セリトモ $3\overline{8}$ ト記セリトモ現實演奏ノ際ニ於テ聽者ノ容易ニ聞別スベカラサルトコロナリ
 第三 八分符十二個即チ四分符六個ノ二倍即チ八分符三個ノ四倍ヲ一小節ト爲スモノハ左ノ如シ

第六十一圖

(同上第一卷第五十四號)



同上旋律 第六十二圖

ヲ八分符
 六個ニ分
 テバ左ノ
 如シ



マタ之ヲ
 八分符三
 個ニ分テ
 左ノ如シ

第六十三圖



未ダ諸符ノ位格ヲ解セザル初學ノ徒ニ此等ノ理由ヲ講ゼンニハ先ヅ複集合小節ヲ分チテ單集合小節ト爲シ此單集合小節ヲサヲニ分チテ單ナル不等拍子小節ト爲シ是ニ於テ再ビ小節ヲ分ツ縦線ヲ去リ八分符三個ノ二小節ヲ合シテ八分符六個ノモノト爲シサヲニ此集合小節ヲ合シテ八分符十二個ノモノト爲シ以テ之ヲ説明スベシ

第七十七條 第四 集合不等拍子

集合不等拍子ハ單ナル不等拍子ノ小節ヲ九部ニ分ツカ又ハ原拍子ノ音符ニ一點ヲ加ヘ以テ得ルトコロノモノナリ
 原拍子ノ音符トハ原小節ノ拍子ヲ度ル音符ヲイヘリ即チ表首ニ疊書シタルニ文字中ニテ下ニ在ルモノ即チ分母ヲ以テ得タル分子ニ當ル音符ナリ(第七十二條ヲ參見セヨ)
 集合不等拍子ニマタ三種アリ

- 第一 二分符三個ヲ四分符九個ニ分チタルモノ
 - 第二 四分符三個ヲ八分符九個ニ分チタルモノ
 - 第三 八分符三個ヲ十六分符九個ニ分チタルモノ
- 第七十八條 第一 四分符九個ヲ一小節ト爲スモノ即チ二分符三個ヲ分チテ變拍子ト爲シタルモノハ左ノ如シ

第六十四圖

〔ハンデル〕氏以太利連奏曲第五號



本曲ノ首

第六十五圖

部及ビ殘

斯ノ如ク譜体ヲ

部ハ單純

變ズルキハ小節

ナル不等

單明ニシテ各二

拍子ニシ

分符ニ一點ヲ附

テ~~左~~ノ如

シ混雜ヲ成ス如

キモノナ

キ憂ナキヲ以テ

リ

甚ダ速見ニ便ナ

第二 八分符九個ヲ一小節ト爲シ即チ四分三ノ拍子ヲ分チテ
集合變拍子ト爲シタルモノ

第六十六圖

〔ハンデル〕

氏歌集第

四卷第三

百十九號



此部分ノ始

第六十七圖

メ及ヒ他ノ

部分ハ~~左~~ノ

如キ單純ナ

ル三拍子ナ

リ



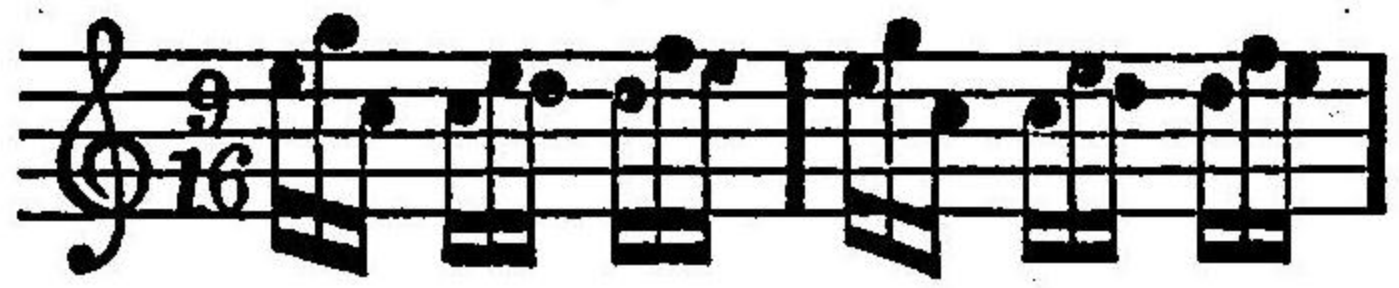
第三 十六分符九個即チ八分符三個ヲ變拍子ニ分チタルモノ
ハ左ノ如シ

第六十八圖

(同上第二

卷第百五

十六號)



本曲中他

ノ部ハ單

ナル本ノ

如キ不等

拍子アリ

第六十九圖



第七十九條 以上ニ論述スル集合拍子ノ二種(平等及ビ不等)ヨリ

混合拍子ノ諸種ヲ

生ゼリ混合拍子ハ

或ル部分ニ於テハ

等平ニシテ或ル部

分ニ於テハ不等ナ

ルモノナリ

第七十圖

(同上第四

卷第三百

十五號)



茲ニ記スル普通

拍子ノ變拍子ハ

小節ノ各四分符

ヲ變ジテ其一個

ニ易フルニ八分

符三個ヲ以テス

ルモノニテ或ハ

此三個ノ上ニ3

ノ字ヲ記スルコ

アリ然レ此三個ハ通例連合シテ一組ヲ爲スヲ以テ敢テ記號
ヲ要セズシテ小節中小部分ノ一ヲ成スコト分明ナリ
マタ原拍子ノ符ヲ二分スベキトコロニ於テ三分スルキハ三拍
子中ニモ變拍子ヲ作爲スルコトヲ得ベシ左ノ如シ

第七十一圖

(同上第五

卷第三百

二十八號)



緩徐ナル普通拍子ニ於テ原拍子
ノ符八分符ナルキ之ヲ二分セズ
シテ三分セバ則チ其拍子ハ十六
分符二十四個ト爲ルベシ

第七十二圖

(同上第三卷第二百四十號)



マタ此ニ類 第七十三圖
似シタル十 (同上第一
六分符ノ曲 卷第十四
八分符三個 號)
ノ不等拍子
中ニ在ルア
リ



喩ヘバ八分符六個ヲ有スル如ク各小節固ヨリ集合小節ナルキ

之ヲ三拍子ニ小分セバ十六分符十八個ト爲ルベシ其例「ハンデ
 ル」氏歌集第三卷第百八十一號ニ在リ
 變拍子ノ同上數ナルモノ四分符三個ノ單ナル三拍子若クハ八
 分符六個ノ集合三拍子中ニ在ルアリ則チ四分符三個ヨリ出シ
 十六分符十八個ナルモノハ學士ヘーデン撰曲集第十七編第十
 葉第二連奏曲ニ在リ八分符六個ヨリ出デタル十六分符十八個
 ナルモノハ同上第十三編第十六葉第三連奏曲ニ在リ
 日耳曼ニ於テハ此等ニ倣フテ四拍子六拍子等ノ中ニ同位ノ
 小符五個七個等ヲ置キ之ヲ名ケテ五拍子七拍子等ナドトイ
 ヘリ（コソク）氏音樂辭書三拍子ノ條等ヲ見ヨ）
 第八十條 此他ニマタ五拍子ト名クルモノアリ一小節ニ四分符

五個ヲ存セリ但シ其例甚ダ稀ナリ

「タルチナイ」氏ハ此五拍子ヲ以テ旋律ニ適セズシテ實際行フベ
 カラザルモノト爲シタリ然レモ今日ニ至リテハ此ノ如キ説モ
 マダ已ニ陳腐ニ屬セリ

第四節 音符ノ強弱ノ事

第八十一條 樂譜ノ縦線ハ獨リ其曲ノ進動ヲ小節ニ等分スルノ
 ミナラズマタ強聲力ヲ有スル音符ヲ指示スル所以ノモノナリ
 總シテ四拍子ノ小節ハ四部ヨリ成ル其第一及ビ第三ハ強聲ニ
 シテ其第二及ビ第四ハ弱聲ナリ本書中此強聲ナル部分ヲ強聲
 部ト爲シ弱聲ナル部分ヲ弱聲部ト爲ス

第七十四圖

(同上第二卷第百十九號)



第八十二條 三拍

第七十五圖

子ノ小節ハ三部

(同上第三

ヨリ成ル其第一

卷第百

ハ強聲ニシテ第

三十三號)

二及ビ第三ハ弱

聲ナリ但シ第三

部ハ第二部ニ比

スレバ稍強シト

ス



第八十三條 緩進普通拍子ニ於テハ強聲ハ更ニ屢ナリ然レモ其

順序ニ異ナルトコロナク第一第三第五第七ハ強聲部ニシテ第

二第四第六第八ハ弱聲部ナリ

四分符三個ノ拍子ヲ分チテ八分符六個ト爲スハ第一第三第

五ハ強聲部ニシテ第二第四第六ハ弱聲部ナリ

八分符六個ノ拍子ニ於テハ第一及ビ第四ノ部分強聲ニシテ其

他ハ總テ弱聲部ナリ

第八十四條 強聲ノ都合ニ因リ或ル進動ヲ始ムルニ一小節中終

ノ部分ヨリセザルベカラザルコアリ左ニ其例ヲ舉ク

(第一) 最尾ノ弱聲部ヨリ始ムル例

第七十六圖

(同上第三卷第百六十三號)



(第二) 半小節ヲ以テ始ムル例

第七十七圖



左ノ旋律ハ小節
ヲ二様ニ分テ強
聲ノ位地ヲ變シ
相反スル二種ノ
成果ヲ生ズルモ

第七十八圖

(蘇格蘭ノ曲「コルンリグス」)

旋律ノ原法

第七十九圖



同上ノ小
節區分ヲ
變シタル
モノ



第八十五條

作者ガ歌曲ノ主眼トスルトコロ強聲部ニアラズシ

テ弱聲部ニ在ルキハ則チ上述スル例規ノ變則タルモノニテ此弱聲ノ聲力ヲ増加セリ故ニ之ヲ名ケテ増聲トイフ

左ニ舉クル如キ例ニ於

第八十圖

テハ八分符ノ組合ヲ成

(ヘーデ

スハ強聲ニ據ルノ通規

ン氏合

ニ反シテ増聲ニ據レル

奏曲第

モノナリ

三サロ

モンズ

コンソ

ルト



此例ノ第一

及ビ第二小

節ハ八分符

ヲ組合スル

ニ強聲ニ據

リ第三小節

ハ増聲ニ據

リ而シテ第四小節ハサヲニ強聲ニ據レリ

日耳曼ニ於テハ強聲ヲ大別シテ樂典上強聲修辭上強聲ノ二

種ト爲ス樂典上強聲ハ此ニ單ニ強聲トイヒ修辭上強聲ハ増

聲トイフ

増聲ハ以太利語ナル再増加強増加ノ略語再増強増ヲ以テ之ヲ

指示シ又此等ノ略語ヲ強聲ノ符上ニ置クコアリ

小節ハ各其曲調緩急ノ度ニ據リ強聲ヲ以テ之ヲ小分シ得ベケ

レバ各小節ノ弱聲部モ亦歌曲作者ノ意ニ任セテ之ヲ増聲ト爲

スヲ得ベシ

第八十六條 此他ニナホ切分音即チ打入音ナルモノアリ打入音

ハ小節ノ弱聲部ニ起リ強聲部ニ止ル

第八十一圖

(ペリオシカル)第四十二號



此例ニ於テ

第八十二圖

増聲ハ打入

(ハンデル)

聲ナル二分

氏歌集第

符ニ在リ即

一卷第六

チ小節中第

號

二部ニ始リ

第三部ニ終

ル



此ニ増聲タルモノハ小節中ノ第二及ビ第六(即チ弱聲部)ニ始リ

第三及ビ第七(即チ強聲部)ニ終ル

第四章 休止記號ノ事

第八十七條 樂曲ノ進動益進往スル際一小節中多少ノ部分ニ於

テ音聲ノ休止スルヲ要スルコトアリ此記號ヲ名ケテ休止記號ト

イフ然リ而シテ休止記號モマタ之ヲ一小節ノ拍子ニ算入セザ

ルベカラス故ニ其拍子ノ長短ハ若シ此音聲ヲ休止セズシテ進

往シタランニハ此部分ニ用フベキ音符ノ拍子ニ符合セザルヲ

得ザルナリ

白符ニ符合スル休止記號ハ之ヲ第三ノ間ニ置ク左ノ如シ

第八十三圖



第一 二音休號ハ第三線ヨリ第四線ニ涉ル

第二 一音休號ハ第四線ノ下ニ在リ

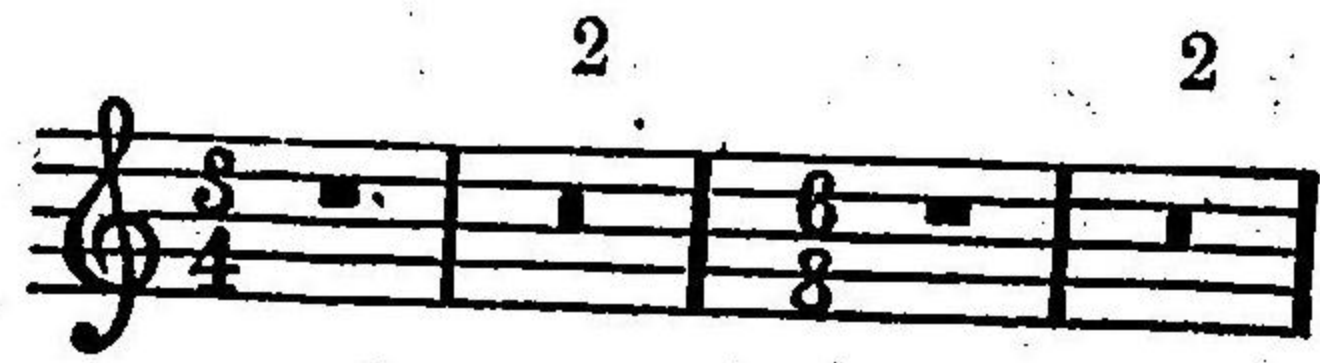
第三 半音休號ハ第三線ノ上ニ在リ

一音符四個若クハ二音符二個ノ休號ハ二間ニ充涉セリ但シ此等ハ用器樂曲ノ部音ニミ用フルトコロナリ(ル—ソ—氏ニ據ル)

マター一音休號ヲ三拍子及ビ集合拍子ニ於テ全一小節ノ休止ニ用ヒ二音休號ヲ全二小節ノ休止ニ用フルコトアリ

二音休號ヲ全二小節ノ休止ニ用フルキハ通例其上ニ二ノ字ヲ置ク左ノ如シ

第八十四圖



第八十八條 黒

第八十五圖

符ニ符合スル
休號ハ左ノ如シ



第一 四分音ノ休號ハ右ニ向キタル一鉤ナリ

第二 八分音ノ休號ハ左ニ向キタル一鉤ナリ

第三 十六分音ノ休號ハ左ニ向キタル二重鉤ナリ

第四 三十二分音ノ休號ハ左ニ向キタル三重鈎ナリ
 休號ハ小節中ニ於テ音聲ノ休止スベキ時間ノ拍子ヲ充足スル
 所以ノモノナリ故ニ演奏者ハ固ヨリ此記號ノ前ニ在ル諸音ノ
 結尾ニ最モ注意スベシ
 有鍵樂器ニ於テハ演奏ノ際數、休號ヲ忽視スル者アリ然レモ演
 曲者ヨクコ、ニ注意シテ休號ノ最モ始ニ方テ嚴然其指頭ヲ鍵
 面ヨリ揚クル(高キニ過クベカラズ)ニ非レバ則チ必ズ該曲所期
 ノ目的ニ違ヒ其精神ヲ傷フニ至ルベシ
 此記號ニ最モ注意ヲ要スル所以ハ左ノ一例ニ明カナリ此ニ調
 子拍子及ビ強聲ノ如キハ終始一ナリトイヘモ此三小節ノ趣ヲ
 相異ニスル所以ノモノハタマニ休號ニ在リ

第八十六圖



爰ニマタ有鍵樂器ヲ彈ズル真正ノ方法ニ就
 テ「シ―、ピ―、エンマニ―ル、バハ氏ノ説ヲ附
 述スルノ機會ヲ得タリ
 同氏ノ説ヲ約言スレバ實ニ二三行ノ文字ニ
 過キザルナリ
 清明、快樂、感切ナル彈手タラント欲セバ左ノ
 三件ヲ要ス

第一 彈曲ヲシテ清明ナラシメンニハ鍵ヲ
 壓スル以前ニ可成丈ケ指頭ヲ鍵上ニ致シ以テ至難ノ曲節ト
 イヘモ其運轉ノ殆ド見ベカラザルヲ期スベシ

第二 樂器ヲシテ吟唱セシメ快樂ナラシメンニハ一指ノ次
鍵ニ觸ル、其瞬間ニ一指ノ先鍵ヲ離ル、ヲ要ス且特別ナル
指示アルニアラザレバ決シテ輕躁孤單ナル彈法ヲ爲スベカ
ラズ

第三 彈曲ヲシテ感切ナラシメンニハ強聲若クハ増聲ニ注
意シテ指頭ヲ鍵上ニ優壓スベシ

第五章 嬰變等ノ事

總論

第八十九條 音符ノ調子ニ就テ(第四十六條)論ズル際既ニ音階ノ
距離ニ一音及ビ半音ノ二種アル所以ヲ述ベタリ則チ自然音階

ニ於テ一音ハ各半音二個ニ分レ其間ニ必ズ中立スル一ノ聲音
アリ此聲音ハ有鍵樂器ニ於テ二長鍵ノ間ニ在ル短鍵ヲ彈シ以
テ之ヲ生ズ是レ此二音ノ中間ニ在ル所以ナリ

第一節 嬰ノ事

第九十條 長鍵ノ代リニ其右ニ在ル短鍵ヲ彈シ此長鍵(本位)ヲ用
ヒザルハ此音ヲ嬰ト爲シ其名ハ此本位(長鍵)ノ名ニ嬰ノ一字
ヲ加フ例ヘバ長鍵(ハ)ナルハ短鍵ハ嬰(ハト)爲ルガ如シ

第九十一條 是故ニ(ハ)調ノ上四音(第五十一條)ヲ見ヨニ等シキ四
音ヲ以テサラニ此四音ノ上ニ連續セシメンニハ該四音ノ最上
ノ音ヨリ一音ヲ隔ツルトコロニ始メ全音二個ト半音一個トノ
距離ニ於テ此四音ヲ構成セザルベカラズ然ルニ第一ト第二ト

ノ距離ハ一全音ニシテ固ヨリ論ナシトイヘレ第二ト第三トノ
距離ハ本來半音ニシテ第三ト第四トノ距離ハマタ却テ一全音
ナリ故ニ第三音ヲ半音上ゲ
第八十七圖



(へ)ノ前
ニ在ル
印シハ
是レ即
チ嬰ノ
記號ナ
リ

第二ト第三トノ距離ヲ伸ベ
テ一全音ト爲シ以テ第三ト
第四トノ距離ヲ縮シテ半音
ト爲サヤルベカラズ因テ此
ニ(へ)ノ本位(長鍵)ヲ廢シ之ニ
易フルニ(へ)ノ嬰(短鍵)ヲ以テ
セザルベカラズ左ノ如シ

第九十二條 此二個ノ四音ヲ聯

合シタルモノハ(ハ)調ニ等シキ
一ノ新調ナリ茲ニ(ト)ハ主調音
ニシテ彼ノ(ハ)ヲ主調音ト爲ス
調ヨリ高キヲ五度ナリマタ此
八音ノ下行スル一列ニ於テモ
全音及ビ半音ノ距離ハ常ニ音
階ノ同度ノ間ニ在リ其上行ス
ルモノト毫モ異ナラザルハ旋
律上證明スルトコロナリ左ノ
如シ

第八十八圖



第九十三條 (ト)

ノ調ハタゞ此
(へ)ヲ易フルノ
ミニシテ完全
セリ故ニ(へ)ノ
音ヲ第一嬰ト
爲ス

(ト)調ノ上四音ノ上ニ同シク四音ヲ構成スルキハ前述スルトコ
ロト同一ナル理由ニ據テ(ハ)ノ本位ヲ廢シ其嬰ヲ用ヒザルベカ
ラズ因テ(ハ)ヲ第二嬰ト爲ス即チ嬰ノ一列ハ五ヲ以テ昇レリ是
レマタ文字ニ於テハ四ヲ以テ降ルト一般ナリ

イ 第五

ニ 第四

ト 第三

ハ 第二

ヘ 第一

此五嬰ハ有鍵樂器ニ於テ長鍵ノ右ニ在ル短鍵ヲ以テ之ヲ彈ズ
即チ二個ノ組ハ嬰(ハ)及ビ嬰(ニ)ニシテ三個ノ組ハ嬰(ヘ)嬰(ト)及ビ

嬰(イ)ナリ

第九十四條

然リト雖モ(ホ)ト(ヘ)トノ間及ビ(ロ)ト(ハ)トノ間ハ各相
距ルヲ半音ニシテ此距離ノ中間(第四十七及ビ四十九條ヲ見ヨ)
ニ短鍵ナシ故ニ(ヘ)ノ本位ヲ以テ(ホ)ノ嬰ト爲シ(ハ)ノ本位ヲ以テ
(ロ)ノ嬰ト爲ス

此ノ如ク(ホ)(ロ)ノ二音嬰ト爲ルキハ此二音ノ本位即チ其長鍵ハ
全ク廢絶ニ屬ス而シテ此二嬰ヲ以テ前記ノ五嬰ニ加フルキハ
始メテ七音ノ嬰全備セリ

ロ 第七

ホ 第六

イ 第五

- ニ 第四
- ト 第三
- ハ 第二
- ヘ 第一

第二節 變ノ事

第九十五條 長鍵ノ代リニ其左ニ在ル短鍵ヲ彈シ此長鍵(本位)ヲ用ヒザルハ之ヲ變ト爲ス而シテ其名ハ此本位ノ名ニ變ノ一字ヲ加フ例ヘバ長鍵(本位)イナルハ短鍵ハ變(イ)ト爲ルガ如シ

第九十六條 是故ニ(ハ)調ノ下四音(第五十一條ヲ見ヨ)ニ等シキ四音ヲサテニ其下ニ連續セシメンニハ該四音ノ最下ヨリ一全音ヲ隔ツルトコロニ始メニ全音及ビ一半音ノ距離ヲ以テ之ヲ構

成セザルベカラズ然ルハ則チ(ロ)ノ本位ヲ廢シ其左ニ在ル短鍵即チ變(ロ)ヲ用ヒザルベカラズ左ノ如シ

第八十九圖

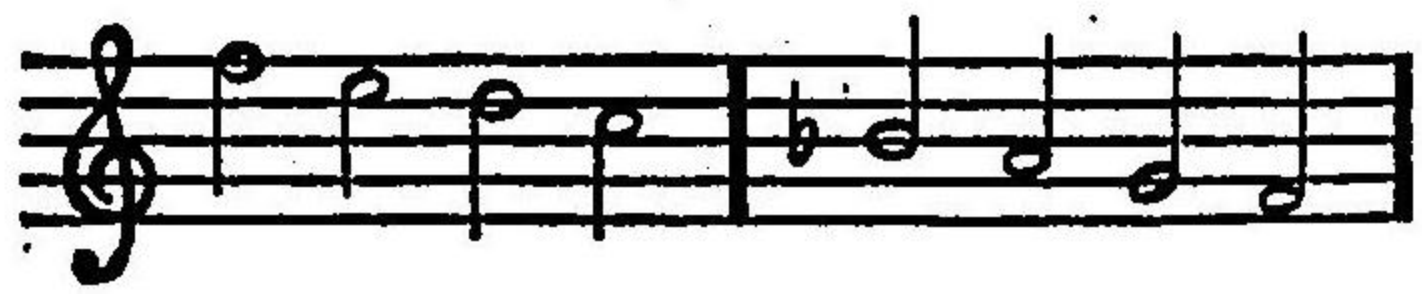


(ロ)ノ前ニ在ル印シハ是レ即チ變ノ記號ナリ

第九十七條 此二個ノ四音ヲ聯合スレバ則チ(ハ)ノ調ニ等シキ一ノ新調ヲ成セリ此ニ(ハ)主調音ニシテ彼ノ(ハ)主調音ト爲ス調ヨリ低キ一五度ナリマタ此八音ノ下行スル一列ヲ以テモ全音及ビ半音ノ距離ハ常ニ音階ノ同度ノ間ニ在リ其上行スルモノト毫モ異ナラザル

ハ旋律上證明スルトコロナリ

第九十圖



第九十八條 (ヘ)ノ調ハタゞ此(ロ)ヲ變ズルノ
ミニシテ完全セリ故ニ(ロ)ノ音ハ第一變ト
爲ス

(ヘ)調ノ下四音ノ下ニサヲニ四音ヲ構成セ
ンニハ前述スルトコロト同一ナル理由ニ
據テ(ホ)ノ本位ヲ廢シ其變ヲ用ヒザルベカ
ラズ因テ(ホ)ヲ第二變ト爲ス即チ變ノ一列
ハ四ヲ以テ昇レリ是レマダ文字ニ於テハ
五ヲ以テ降ルト一般ナリ

ト 第五

ニ 第四

イ 第三

ホ 第二

ロ 第一

此五變ハ有鍵樂器ニ於テハ長鍵ノ左ニ在ル短鍵ヲ以テ之ヲ彈
ズ即チ其二個ノ組ハ變(ホ)及ビ變(ニ)ニシテ三個ノ組ハ變(ロ)變(イ)
及ビ變(ト)ナリ且既ニ嬰ニ就テ(第九十四條)論述スルトコロト同
シ理由ニ因テ(ロ)ノ本位ヲ以テ(ハ)ノ變ト爲シ(ホ)ノ本位ヲ以テ(ヘ)
ノ變ト爲ス是ニ於テ七音ノ變マダ始メテ全備セリ左ノ如シ

ヘ 第七

- ハ 第六
- ト 第五
- ニ 第四
- イ 第三
- ホ 第二
- ロ 第一

此變ノ一列ハ即チ第九十四條ニ示ス嬰ノ一列ノ倒行セルモノナリ
 是故ニ短鍵ハ各二名ヲ有シ其本位トスルトコロニ由テ其名ヲ異ニシ或ハ嬰ト爲リ或ハ變ト爲ル例ヘバ三短鍵ノ中ノ一鍵ハ其左ニ在ル(ト)ノ本位ノ場ニ於テハ即チ第三嬰ト爲シ其右ニ在

ル(イ)ノ本位ノ場ニ於テハ即チ第三變トシテ用フルガ如シ

第九十九條 譜表ノ首ニ於テ音部記號ノ後ニ嬰若クハ變ノ記號

若干數ヲ置クキハ本曲ノ首ヨリ尾ニ至ルマデ各八音中ニ於テ

此記號ニ當ル符ハ盡ク嬰若クハ變ト爲ル此ニ此記號ヲ名ケテ

調號トイフ

一曲中ニ於テ此調號ニ屬セザル嬰若クハ變ノ記號ヲ用フルキ

ハ之ヲ名ケテ臨時用嬰若クハ變號トイヒ以テ各調ニ固有スル

モノト異ナルヲ示セリ

臨時用嬰變ハ直チニ之ニ次接スル同度ノ符ト同小節中ニ於テ

同度ニ屬スル他ノ符トニ及ベリ但シ此一小節終ルニ次ノ小節

更ニ同度ノ符ヲ以テ始ルキハ依然之ヲ襲用セルモノトス

日耳曼ニ於テハ嬰變ヲ文中ニ書スルニ語尾ノ増加ヲ以テセ
リ例ヘバ嬰(ヘ)ヲ「ヘイス」トイヒ變(ロ)ヲ「ロエス」
ニ於テモ亦此ニ類スル方法アリ

第三節 本位ノ事

第百條 或ハ嬰ト爲リ或ハ變ト爲

リタル某音ノ其本位ニ復スルキ

ハ本位記號ト名クルモノヲ以テ

其前ニ置キ之ヲ表示ス是レ嬰ノ

音ハ之ヲ下ゲ變ノ音ハ之ヲ上ゲ

其本位ニ復セシムル所以ノモノ

ナリ左ノ如シ



第九十一圖

本位記號ハ其由來既ニ久シトイヘモ「モルレ」
「プレ」
「フオ」
「ド」諸氏ノ未ダ用ヒザリシトコロナリ此諸氏ノ如
キハ常ニ變ノ記號ヲ以テ嬰ヲ消去シ嬰ノ記號ヲ以テ變ヲ消去
セリ其情ナホ吾人ガ今日本位記號ヲ以テ嬰變ヲ消去シ之ヲ本
位ニ復セシムルニ於ケルガ如シ
是ヲ以テ古代ノ樂譜ニ於テハ(ロ)ノ前ニ嬰號アリ(ヘ)ノ前ニ變號
アルアリ然レモ是レ其嬰(ロ)及ビ變(ヘ)タルヲ示スモノニアラズ
シテタゞ其以前ニ在リタル變若クハ嬰ヲ消去スル所以ノモノ
ナリ

本位記號ハ其質臨時用ノモノニ類似シ且嬰變二質ノ總稱ヲ含
メリトイヘモ若シ一曲中前ノ部分ニ於テ其調ニ固有スル嬰若

クハ變ヲ有スルキハ此本位記號ヲ次ノ大段落ノ首ニ置クコトアリ故ニ一調ノ中ニ於テ其音ヲ上下セシムルヲ得ル所以ノ權力ニ就テ之ヲ論スレバ本位記號ハマタ嬰或ハ變ヲ表示スルモノトイフモ敢テ不當ニアラザルベシ

第四節 重嬰ノ事

Double Sharp

第百一條 一列ヲ成ス七音殘ラズ嬰ト爲リシ後ハサヲニ此七音ノ一列ヲ複用シテ嬰ト爲スコト前既ニ述ルトコロト同シ而シテ(ヘ)ハ第一嬰ナルヲ以テマタ再ビ第一嬰ト爲ル此ニ之ヲ重嬰ト爲ス重嬰(ヘ)ハ有鍵樂器ニ於テハトノ本位ニ當レリ然レモトノ本位ハ此ニ於テ(ヘ)ノ本位ヨリ一全音ヲ隔ツルモノト爲サズ(ヘ)ト同度(第四十八條ヲ見ヨ)ニ在テ半音階的半音(短三個ヨリ成

ルモノト爲ス

第九十二圖



マタ重嬰ハ記號ヲ重複セズシテタマ(X)ノ如ク斜体十字形ノ記號ノミヲ用ヘリ

第五節

重變ノ事

Double Flat

第百二條 マタ一列ヲ成ス七音殘ラズ變ト爲リシ後ハサヲニ(ロ)ヨリ始メテ此七音ヲ變ト爲ス而シテ(ロ)ハ第一變ナルヲ以テマタ此ニ

第一變ト爲ル之ヲ重變(ロ)ト爲ス重變(ロ)ハ下ニ向テ半音二個ノ距離ヲ隔ツルイノ本位ニ當レリ蓋シ第一嬰ハ三短鍵中ノ最下ナルモノニシテ第一變ハ其最上ナルヲ以テ相互ニ接近セリ故

ニ第一重嬰及ビ第一重變(通常此二種ノミヲ用フ)ハ嬰(ヘト變(口トノ間ニ在ル二長鍵ニ當レリ

第九十三圖



第九十三圖 第三百三條 上述スル重嬰重變ノ二種ハ甚ダ稀ニ用フルトコロナリ故ニマダ斯ク重嬰若クハ重變ヲ用ヒシ後驟カニ其一嬰若クハ一變ヲ消除スルノ方法ニ就テハ諸家ノ說區々ニシテ或ハ單ナル嬰又ハ變ノ記號ヲ用フルアリ或ハ本位ノ記號ヲ用フルアリ或ハ嬰若クハ變ノ記號一個ト本位記號一個トヲ并用スルアリマタ七嬰變ヲ彈ズルヲ得ル以上ハ特別ノ記號ナクシテ之ヲ

復スルノ方法ヲ知ラザルベカラズト爲シテ一ニ之ヲ彈奏者ノ耳カト判斷トニ屬スルモアルナリ

重嬰記號ノ用法トイヘヒマタ數說アリ「ハンデル」氏ノ如キモ調號中ニ於テ既ニ嬰ト爲リシ(ヘ)ノ音再ビ嬰ト爲ルハ其前ニタゞ嬰號一個ヲ置クノミニシテ他ニ特別ノ方法ヲ處セザルコトアリ(「ハンデル」氏歌集第一卷第九號ヲ見ヨ)

第六章 鹽梅及ビ雜記號等ノ事

第一節 鹽梅ノ事

第四百四條 鹽梅ノ論題ニ就テハ「シ」、「ビ」、「バハ」及ビ「ジ」、「デ」、「トル」ク「氏」ノ如キ日耳曼諸大家ノ講求スルトコロ頗ル詳明ナリ請フ

其大要ヲ撮摘セン

第一百五條 旋律上ニ用フル擡梅ノ重ナルモノハ倚音、顫音、回音及

ビ波動ナリ日耳曼ニノミ特別ナル搖動、順動、波動、アキシラチニエキトレン彈音モコ、ニ

屬セリ和聲用擡梅ノ重ナルモノハ全絃神速反覆、全絃顫動等ナ

リ

古代英吉利利用ノ擡梅ニ二種アリ即チ波動、後下、複後下、揚發、温發、温止ヲ平滑的ト爲シ顫動後下、密接顫動、顫動波動、顫動揚發、顫動温止、複猶豫ヲ顫動的ト爲ス(「コールマン」ニ據ル)

第一百六條 第一 倚音

アキシラチニエキトレン

倚音ハ小符ニシテ大符ノ前ニ在リ此大符ニ倚賴シテ其半音ヲ借ル通例小節ノ強聲部ニ在リ

第九十四圖

倚音
書法



同
奏法



第一百七條 マタ倚音ニ次ノ音ノ四分一ノミヲ借ルモノアリ左ノ如シ

書法



奏法



書法



奏法



第九十八條 小符ニシ
 テ大符ノ後ニ在リ
 而シテ此大符ヨリ
 其音ヲ借ルモノハ
 之ヲ後音ト各ケ以
 テ倚音ト區別ス
 後音ハ常ニ小節ノ
 弱聲部ニ屬セリ

第九十九條

日耳曼ノ音樂家ハ實用ニ屬セズシテタゞ旋律ノ粧飾
 ニノミ屬スル音ハ之ヲ大別シテ二種ト爲ス即チ第一經過音第
 二變過音是ナリ然レモ第九十六條ニ示ス例ノ如ク倚音ニシテマ

ニノミ屬スル音ハ之ヲ大別シテ二種ト爲ス即チ第一經過音第
 二變過音是ナリ然レモ第九十六條ニ示ス例ノ如ク倚音ニシテマ

タ其前ニ在ル大符ノ掛留音タルモノハ此二種中ニ屬セズ此等
 ハ第三編和聲論ニ至リテ更ニ説明スルトコロアラントス
 第一百十條 第二 顫音

顫音ハ本記號ヲ有スル音ト直チニ其上ノ度ニ在ル音トノ神速
 ニ交互反覆スルモノナリ蓋シ此反覆ハ下ヨリ上ニ反動シテ止
 ムヲ常ト爲ス左ノ如シ

第九十七圖



奏法



此例ニ於テハ上ノ
 音ヲ以テ強聲ト爲
 ス然レモ或ル例ニ
 於テハ作者ガ下ノ

音即チ記號ヲ有スル音ヲ以テ強聲ト爲シタルガ如キモアリ左
 ノ如シ

第九十八圖

〔ハンデル氏第二風琴樂譜第二百二十四號〕



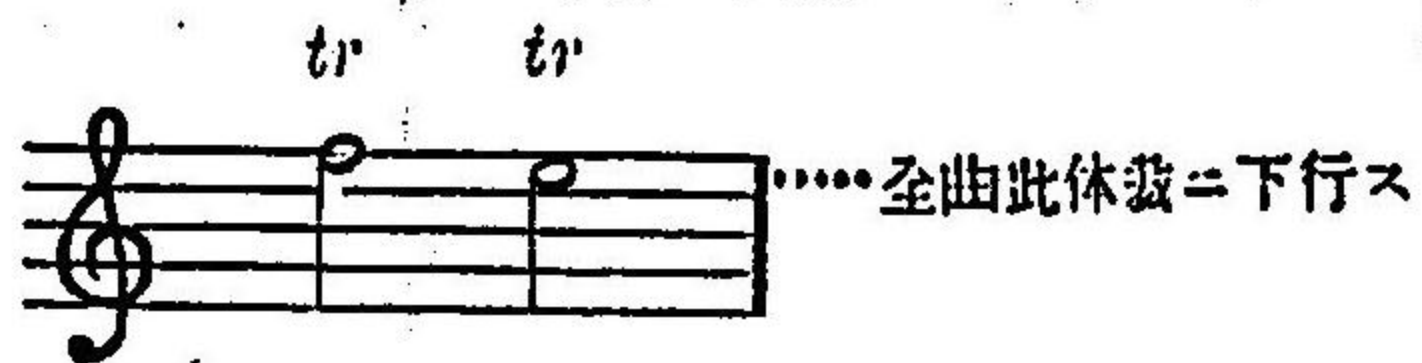
上ニ記號ノアル符ハ日耳曼ニ於テハ
 ウプト、トーン(主音)トイヒ上ノ符ハハ
 ヴルブストーン(助音)トイフ

第一百十一條 左ニ舉クル唱聲顫音ノ方
 法ハ「グレートレック」氏ガ其友人ナル
 「カルコット」氏ニ傳フルトコロナリ「グ

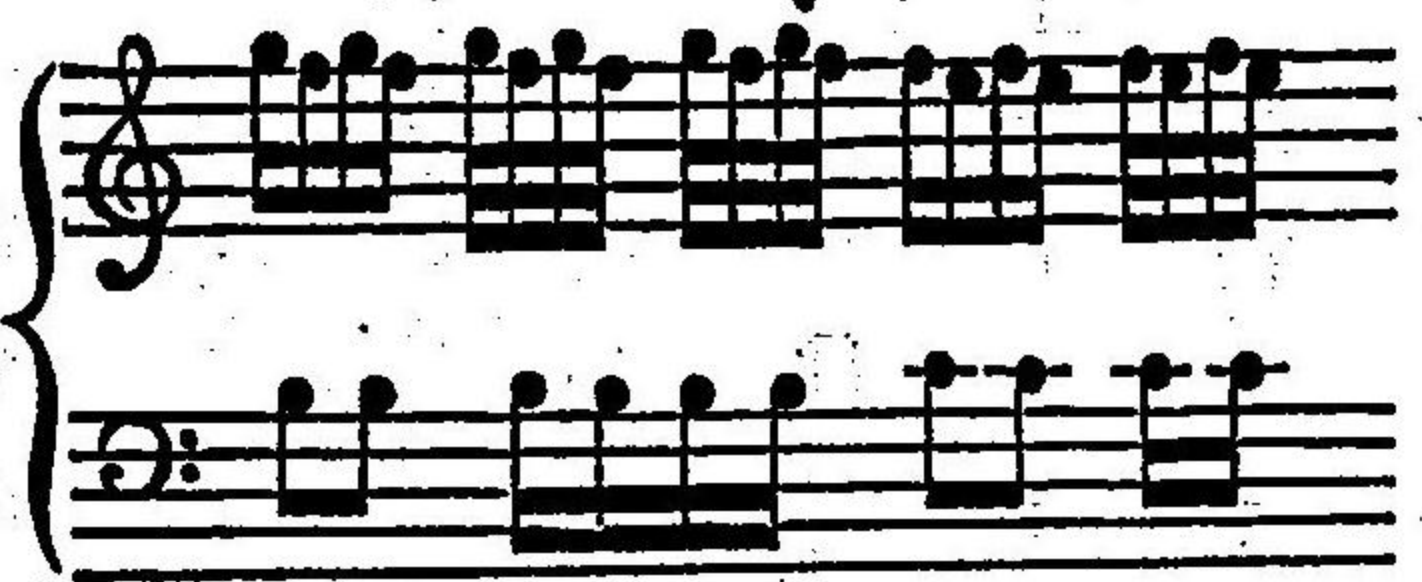
レドレック氏ハ千七百八十六年羅馬ニ於テ羅馬法王ノ禮拜堂樂師タル「サンタレ」氏ヨリ之ヲ得タリ

第九十九圖

書法



奏法



第一百十二條 連續シテ順次ニ上下スル顫音ノ一列ハ日耳曼ニ於テ之ヲ「トリラ、ケッテ」トイヒ以太利ニ於テ之ヲ「カテナ、ダイ、トリラ」トイフ何レモ連頓ノ義ヲ含メリ

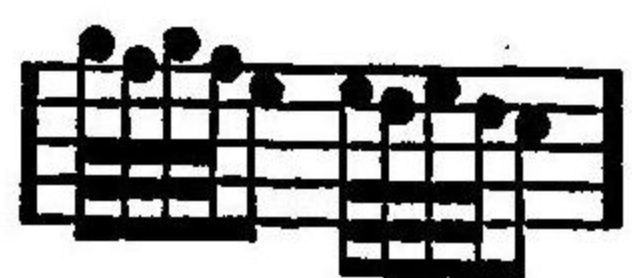
第一百十三條 經過顫音ハ日耳曼ニ於テ一種特別ノ記號アリ然レモ其意義ニ係リテハ樂家各其說ヲ異ニシ加之其處ニ因テ其意義ヲ異ニセリ此ニ舉クル名稱及ビ記號ハ學士「アルノード」ニ據ル

第一百圖

書法



奏法



以太利流ノ搖動ハ等シキ場合ニ用ヘリ左ノ如シ

第百一圖

奏法



書法



此等ノ摠梅ヲ實行スル種々
ノ方法ニ就テハクレメンタ
イ氏ガ嘗テ著シタル音楽入
門第十一葉ニ詳カナリ

第百十四條 第三 回音

回音ハ其記號ヲ存スル音ヨリ
下ニ降リマタ上ニ回ル左ノ如
シ

第百二圖

奏法



書法



第百十五條 反回音ハ下ヨリ上ニ昇
リマタ下ニ回ル左ノ如シ

第百三圖

奏法



書法



マタ點ヲ帶
ブル符ヲ數
回音ニ用フ
ルアリ

第四百四圖

書法



奏法

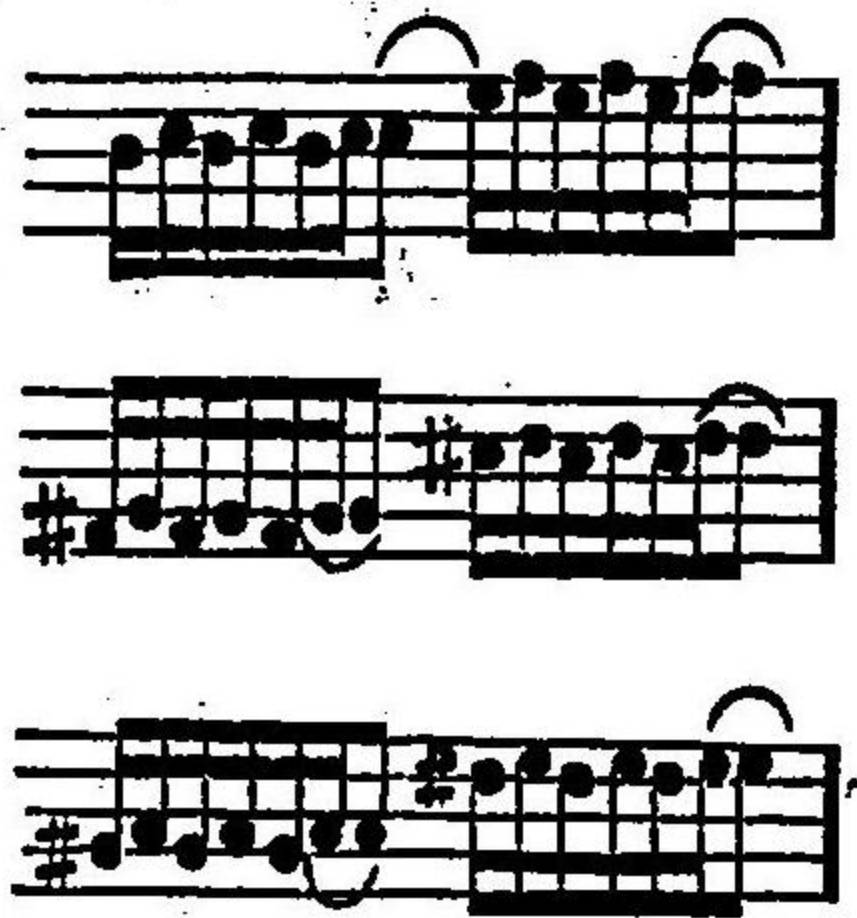


第一百十六條 第四 波動

波動ハ顫音ノ反對ニシテ上ニ進ミ平動ニ終ル通例其半音下ニ在ル音ト交互ニ反覆セリ故ニ(ハ)(ヘ)ニ音ヲ除ク外本位ノ音ハ此波動ノ爲ニ總テ半音臨時ニ上ルヲ要ス

第四百五圖

奏法



書法



第一百十七條 然リト雖モ

本位(ロ)ニ於ケル波動ハ嬰(イ)ヲ用フルヲ殆ト之ナシ是レ半音程ナル(ロ)(ハ)ノ近傍ニ於テ甚ダ粗暴ナル音聲ヲ生ズル所以ナリ

順序正シク上行スル例

ニ於テハ特ニ指示スル

ニアラザレバ半音程ニ於テ波動ヲ爲ザルヲ善シトス(クレメン

タイ氏音樂入門第十一葉ヲ見ヨ

第百十八條 半波動ニ於テハ下ノ符ヲ用フルヲタマニ一回ニシテ且主音ト同時ニ於テシ直チニ之ヲ止メリ半波動ハ數風琴ニ於テシコトニ低音

第百六圖

ニ用ヘリ此音ノ符ハ倚音ノ如キ小符ニシテ且甚ダ以太利ノ碎音ニ等シ左ノ如シ



第百十九條 第三編ニ至リ和聲論ノ條下ニ就テハ全音階的掛留及ビ經過音ハ倚音及ビ後音ヨリ生シ半音階的特例ハ碎音若クハ半

波動ヨリ來ル所以ヲ講求スベシ實ニ此等ノ摠梅ハ理論上甚ダ緊要ナルモノトス

第百二十條 第五 日耳曼流搖動

日耳曼ノ所謂搖動ハ書法ト奏法トノ別ナクシテ實際奏スル如ク譜表ニ現記

第百七圖

シタル波動ノ

一種ニシテ長

短搖動

短ノ二種アリ



左ノ如シ

長搖動



是レ既ニ第百十三條ニ記スル搖動ヨリ一度下ニ在リテ大ニ異ナルモノ、如シ以太利流ノ搖動ハ必ズ常

ニ一度上ニ在リ

第二百一十一條 第六 日耳曼流波動

日耳曼ノ所謂波動ハ二個ノ小符ニシテ主音ヨリ上一度ニ在リ

且此ニ 第百八圖

個ノ小

奏法

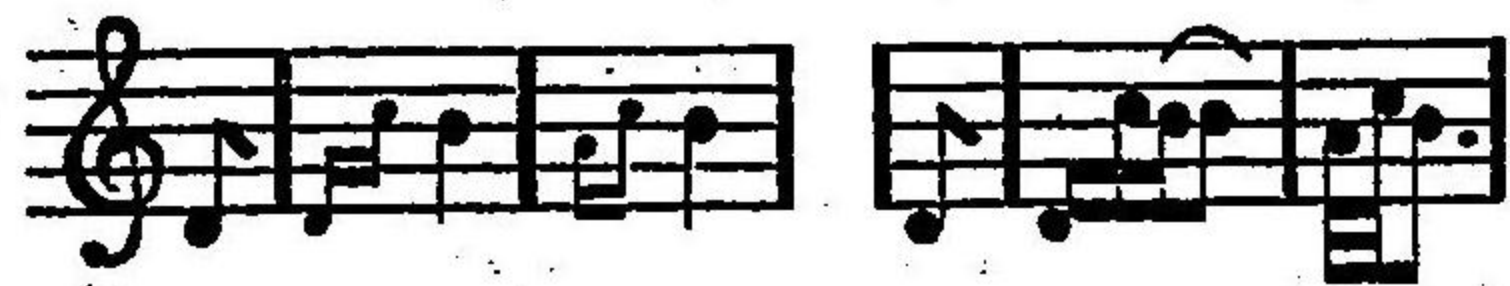
符ハ跳

越音程

ヲ成セ

「トルク氏ノ譯書ヲ觀ルニ「ナウムベルゲル」氏ハ之ヲ複倚音トイヘリ(第二十六葉)

書法



第二百二十三條

第七

日耳曼流彈音

第二百二十二條 第七 日耳曼流順動

日耳曼ノ所謂順動ハ順次ニ度ヲ逐テ上行又ハ下行スル二個ノ小符ナリ左ノ如シ

第百九圖

書法



奏法



日耳曼ノ彈音ハ二個ノ小符ニシテ宛カモ以太利流ノ搖動ニ似
タリ然レモ甚ダ鮮明ナリ左ノ如シ

第一百圖

奏法



第二百二十四條 以上ノ鹽梅ハ撰譜上

ノ都合ニ依リ其孰レヲ變化シテ嬰

變若クハ本位ト爲ストモサラニ碍

ゲナシ但シ然ルモハ則チ撰者ノ欲

スル所ニ隨テ之ヲ彈ゼシメンガ爲

ノ記號ヲ詳記スベシ

第二百二十五條 旋律ニ屬スル此等ノ

鹽梅ノ他ニマダ和聲ニ屬スルモノアリ單絃反覆即チ和絃中一

書法



音ノ反覆全絃顫動即チ和絃總音ノ顫動及ビ全絃神速反覆即チ
和絃ノ總音ヲ神速ニ反覆續彈シテ立琴ニ倣似セシムルモノ是
ナリ

第二百二十六條 「クレメンタイ氏ハ有鍵樂器ニ於テ和絃即チ同時

ニ奏スル數音ニ用フル二個ノ記號ヲ説明セリ (音樂入門第九葉)

第一 和絃ノ前ニ縱行波線ノアルモハ之ヲ奏スルニ最下ヨリ

逐次最上ニ至リ且和絃ノ十全ナル拍子ニ由ルベシ

第二 一斜線ノ或符ヲ貫通スルモハ之ヲ有スル小節ニサラニ

一符ヲ加ヘ總テ之ヲ其前節ノ如クニ奏ス但シ此一符ハ拍子ニ

入レザルモノトス

此一符ハ既ニ(第一百十八條)論述セル碎音ニシテ即チ日耳曼ノ

半波動ニ當ル

第二節、雜記號ノ事

第二百二十七條 音部記號、音符、休止記號、嬰變、本位、擡梅ノ如クニ判然タル一種ノ部分ヲ成サ、ル樂譜用記號ハ連合線、延聲記號、反覆記號、指示記號、單縱線、複縱線（平行縱線）トス但シ連合線ハ其形ヲ連結ニ類スルヲ以テ發相記號中ニ屬シ次節ニ讓ル

第二百二十八條 延聲記號ハ曲々ニ定規ノアル拍子ニ悖リ此記號ノ在ル部分ニ於テ聲音ヲ延長スベキ所以ヲ指示スルモツナリ

第一百十一圖

（ハンデル「氏歌集第二卷第八十二號」）



「バットラ」氏ハ休止ヲ延聲ト爲シ延聲ヲ結尾ト爲ス而シテ「ホールデン」氏ハ延聲ヲ持長トイフ

延聲記號旋律ノ終ヨリ第二ノ音ニ在ルハ結尾ノ頓音ニ先ツテ所謂靜止法ナル一小節ヲ臨時ニ加フルノ記號ト爲ス

第二百二十九條 延聲記號モシ休止記號ノ上ニ在ルハ頗ル久止シ此記號ニ當ル部分ノ全ク沉默スルヲ要ス

第一百十二圖

（同上第一卷第三十一號）

第三百十條 「ハンデル」ヘッシー「ウインシー」氏
 等ノ作ニシテ二重音ヨリ成リ且反始ノ二
 字ヲ附記シタル歌ニ此延聲記號ヲ他ノ目
 途ニ用フルモノアリ



第三百十三圖

(同上第二卷第百五十七號)

此例ニ於テ延聲記號ハ單ニ曲ノ結尾スル
 音ヲ示ス但シ斯ノ如キ場合ニ於テモ必ズ
 常ニ平行縦線ニ先ツモノニアラザルベシ
 反始ハ「ダ、カポ」トイフ二字ヲ以太利語
 ニシテ始ニ反ルノ義ナリ此語ハ屢始處
 (アル、セグノ)トイヘル語ヲ組合シテ用ヘ
 リ「アル、セグノ」ハ即チ是ヨリ始ムルノ義
 ヲ合メリ



第三百十三條 反覆記號ハ演曲者ガ曲節ヲ反覆スル爲ニ戻ル
 キ場所ヲ示ス所以ニモ「ナリ」此記號ハ通例輪唱歌反始歌ニ在

リ且首ノ大段落ニ於テ反覆ノ始ル場所ヲ指示セリ以太利ニ於
テハ此記號ヲ各ケテ單ニ「セグノ」トイフ「セグノ」ハ即チ記號ノ義
ナリ

第百十四圖

(同上第一

卷第百五

十三號)



第百三十二條 指示記號ハ

次ノ譜表ニ於テ第一ノ音
ノ在ルトコロヲ示ス爲ニ
前ノ譜表ノ終ニ於テ用フ
ルモノナリ左ノ如シ

第百十五圖

(ラモー氏音樂論第百六十八號)

第百三十三條 單縱線ハ既ニ(第六十六條

論述スル如ク曲ノ進動ヲ數小節ニ等分
スル所以シモノナリ蓋シ各小節ノ首ノ
符ハ必ス常ニ強聲部ニ屬スルヲ以テ日
耳曼ニ於テハ樂典上強聲ノ記號トセリ
「バットラー」氏ハ古代ニ用ヒタル太キ單
縱線ヲ各ケテ不全結記號トイフ

縱線二個ノ内側ニ於テ各一行ノ點線ヲ有スルキハ此中間ニ在
ル小節ハ總テ之ヲ反覆スベキモノトス左ニ其例ヲ擧グ



第一百十六圖

（ハシ）デル氏歌集第一卷第六十八號



「オル」ニソ 波清染ス 氏有之ヲ總止ト名ケ以テ休止記號ノ部ニ

マタ縦線ノ内側ニ點ノ有無ニ係リ
此類ノ曲ニハ往々上ニビス（三回）
字ヲ置テ 波清ニ 染スルヲ以テ
第三百三十四條ニ復縦線ハ常ニ進動ノ
終リニ在リマテ或ハ修辭止ノ大段
落ヲ示ス爲ニ他ノ處ニ用ケルナリ

屬セシメタリ 波清染ス 氏有之ヲ總止ト名ケ以テ休止記號ノ部ニ
復縦線ノ一傍若クハ兩傍ニ點線ヲ存スルハ此點線ノアル傍
ノ小節ハ總テ曲首若クハ前ノ復縦線以下ヲ反覆スベキモノト
ス

第一百三十五條

修辭上ノ結局

下樂典上ノ結局ト符合セザルハ

復縦線ト單縦線トハ全ク其意義ヲ相變シ單縦線ノミヲ以テ小
節ヲ計算ス故ニタトヒ其中間ニ復縦線アリモサラニ之ニ關係
セザルナリ左ノ如シ

第一百十七圖

（同上第五卷第三百七十四號）

此複縦線ハ之ヲ有スル小節ニ影響セズ
而シテ拍子ハ此縦線ヲ有セザルモノト
一般ナリ

第三百三十六條 此故ニ複縦線ハ單縦線ト
全ク異ナルヲ以テ單縦線ノ樂典上用法
ト複縦線ノ修辭上用法トヲ錯綜誤解ス
ベカラザルコト緊要ナリ



第三百三十七條 若シツレ樂曲ハ何レモ完全ナル小節ヲ以テ終リ
且樂曲ハ決シテ單ナル拍子(第八十四條ヲ見ヨ)ヲ以テ始ルヲ要
スルコトナクンバ複縦線ノ如キハ之ヲ廢スルヲ得ベシ然レモ大

段落ニ未完小節ヲ以テ終ルモノアリ此結尾ヲ明示スルコト必要
ナリ故ニ此記號ヲ用ヘリ蓋シ複縦線ノ大段落ニ於ケルハナホ
單縦線ノ小節ニ於ケルガ如キ關係ヲ有セリ
第三百二十八條 各小節ニ符ノ定數(第六十七條)アリ單縦線ヲ以テ
之ヲ區別ス各大段落ニ小節ノ定數アリ複縦線ヲ以テ之ヲ區別
ス

第三節 發相記號ノ事

第三百二十九條 發相記號ノ重ナルモノハ連結、垂點、星點、及ビ既ニ
(第三百二十七條)論ズルトコロノ連合線ト爲ス

第四百十條 連合線ハ同度ニ在ル二個ノ符ヲ連合シテ一個ト爲
スタメニ其上ニ引キタル曲線ナリ有鍵樂器ニ於テハ始メノ符

ヲ奏シ終ヲ略シテ奏セズ但シ指ハ該ニ符ノ拍子ニ當ル時間中
壓住シテ動カスベカラザルナリ

第百十八圖

(同上第三卷第百八十號)



第百四十一條 古代ノ樂曲ニ於テハ縱線
ヲ以テ分斷シタル彼ノ切分符ヲ表示セ
ンガ爲マタ此連合線ヲ用スルヨアリ左
ノ如シ

第百十九圖

(コレリ一氏撰譜第六編第一合奏曲)



第百四十二條 連結ハ相異ナル度ニ於
ケル二個以上ノ符上ニ引キタル曲線
ニシテ此線下ニ在ル符ハ總テ指頭ヲ
鍵面ニ密接シ之ヲ連合シテ軟滑ニ奏
スベキ所以ヲ示スマタ唱歌ニ於テハ
數符ヲ一言ニ唱スベキモノハ上ニ用
ヘリ

第百廿圖

同上第三卷第九十一號

トルク氏ノ譯書(第二十六葉)ニ於テハ
連結ナル語ヲ鹽梅ノ順動(第百二十二
條)ニ用ヒタリ

第百四十三條 連結タ、二符ノ上ニ在ル

ハ通例其第二ノ符ノ當然ナル拍子ヲ
縮ス但シ往時ハ實際短カキ符ヲ以テ其
第二三置キ此記號ヲ用ヒザリキ左ノ如
シ



第百二十一圖

同上第三卷第一號

第百四十四條

垂

第百二十二圖

點ハ指頭ヲ鍵面

(同上第三卷

ヨリ高ク揚ゲ極

第百八十二

メテ短速鮮明ニ

號)

奏スベキ符ノ上

ニ記シタル小點

ナリ

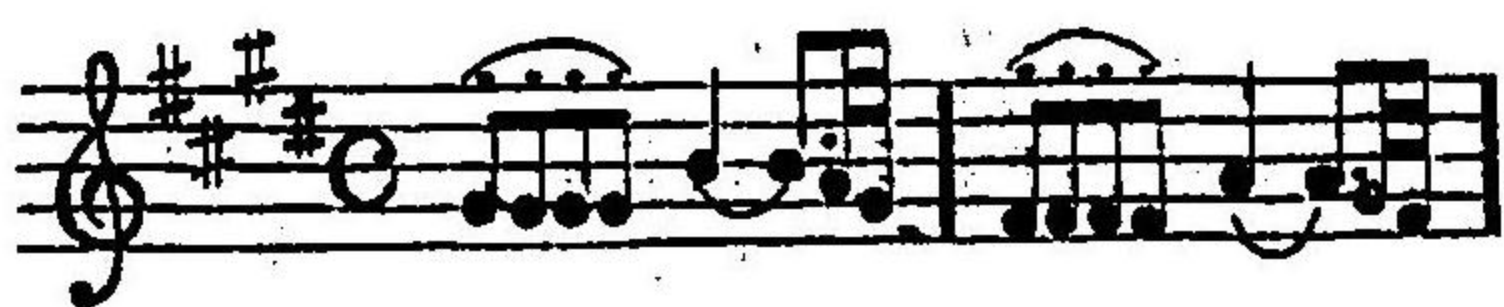


第百四十五條 星點ハ諸書ニ垂點ニ代用シタルモアリ然レモ此
星點ハ均シク連合スル符ニシテナホ連結若クハ垂點トモ同シ

カラザル結果ヲ要スル所ノ符ヲ區別スル爲ニ專用スルモノト爲ス左ノ如シ

第百廿三圖

(同上第一卷第六十一號)



第百四十六條 有鍵樂器ニ於テ樂曲ヲ奏スル時ハ連結ニ於ケル如ク指頭ヲ鍵面ニ密接セシメズマタ重點ニ於ケル如ク之ヲ鍵面ヨリ高ク揚ゲズシテタゞ靜和ニ運用シ而シテ全ク拍子ノ終ラザル以前ニ之ヲ引去リ次ニ移スヲ要ス

第百四十七條 此他發相ノ記號トスルモノ多シ是レ若干以太利語ヲ意義ニ協フ成果ヲ得ンガ爲近來施用スルトコロナリ

第一 急強記號ハ線尾右ニ向テ開ク角度ニシテ音勢ノ弱小ヨリ強太三急轉スル所以ヲ示ス即チ<ノ如シ

第二 急弱記號ハ前號ト反シテ線尾左ニ向テ開ク角度ニシテ音勢ノ強大ヨリ弱小三急轉スル所以ヲ示ス即チ>ノ如シ

菱形記號ハ前二號ヲ合併セルモノニテ始メ弱小ニシテ中コロ強大ヲ致シ終リニ再ビ弱小ナルベキ所以ヲ示ス即チ◇ノ如シ

第三 強聲記號及ビ弱聲記號ハ同シク音聲ヲ強弱スル所以ノ記號ナリ但チ其形狀ニ明カナル如クヤ、其度ノ小ナルモ

ノニ用フ即チ><ノ如シ

第四節 略號ノ事

フツアリビエーシヨンス

第四百十八條 同音若クハ同部分ヲ反覆スルルハ略號ヲ用ヒテ作者及ビ筆耕者ノ時間ヲ節儉セリ
全音符ノ上若クハ下又ハ二分符或ハ四分符ノ符尾ヲ經過スル單畫ハ之ヲ八分符ニ分チ複畫ハ之ヲ十六分符ニ分チ三畫ハ之ヲ三十二分符ニ分テリ左ノ如シ

第百廿四圖

(同上第一卷第十八號)



第百四十九條 以太利ノ樂譜ニ於テハ往

時斯ノ如キ部分ニ八分一、十六分一等ノ文字ヲ附記セリ又方今英國ニ於テモ次ノ諸符ヲ初ノ諸符ノ方法ニ倣フテ奏スベキ所以ヲ指示セン爲ニ數餘者準之ノ文字ヲ附記スルコアリ

第百五十條

マタ近代ノ樂譜ニ於テ最モ通常用フル略號ハ即チ二分符ノ符尾ヲ八分符ニ於ケル如ク連合スルコ是ナリ(第六十五條ヲ見ヨ)

第百二十五圖

〔テレシ〕氏二器合奏曲第十二編第二葉胡弓譜

五線ワリ

二の奏法

第百五十一條



ハ、テレシニヨリテ氏辭書之レメンタ不氏書書等ニ
於テハ大ホ種々ノ畧號ヲ別トスル

餘ハ之ヲ畧ス

書法



ハ、テレシニヨリテ氏辭書之レメンタ不氏書書等ニ
於テハ大ホ種々ノ畧號ヲ別トスル
餘ハ之ヲ畧ス
ハ、テレシニヨリテ氏辭書之レメンタ不氏書書等ニ
於テハ大ホ種々ノ畧號ヲ別トスル
餘ハ之ヲ畧ス

樂典卷之一終

樂典卷之二

ジョン、ガルコット 原著

神津 元 譯述

神津專三郎 校訂

第二編 旋律論

第一章 音程ノ事

第一節 音程總論

第百五十一條 單一ナル聲音ノ或ル方向ニ由テ連續スルモノハ

之ヲ一ノ旋律即チ曲調ト爲ス左ノ例ニ於ケルガ如シ

第百廿六圖

(「ゴット、セー、プ、ゼ、ク、イ、ン」)

旋律ハ更ニ廣キ字義ニ於テハ音ニ單一ナル聲音ノ進行ヲ謂フノミナラズナホ和聲上ニ於テ諸聲音ヲ和合シタル進行ヲモ謂ヘリ呂律ノ移行ニ於テ始メテ單移行複移行ノ二種ヲ區別シタルハ蓋シ「プリンス」氏ナリ

第二百五十二條 旋律ノ行法ニ二種アリ順次移行跳越移行是ナリ

旋律ノ進行上リ又ハ下ルニ線ヨリ間ニ至リ間ヨリ線ニ進ミ次ヲ逐テ順行スルモノハ之ヲ順次移行ト爲ス左ノ如シ



第百廿七圖

(「レット、アム、ビシ、ヨ、ン、フ、イ、ア、ザ、イ、マ、イ、ン、ト」)

第二百五十三條

旋律ノ進行上

リ又ハ下ルニ

一度若クハ數

度ヲ跳越スル

モノハ之ヲ跳

越移行ト爲ス

左ノ如シ

第百廿八圖

(「ホ、イ、シ、ハ、オ」)

ワ、イ

キ、エ、ン、サ

イ、ン、ス

「ハ」

第十號

第三號



第百五十四條 通常ノ音曲ハ概テ順次移行ト跳越移行トノ混合

ナリ「エ」ストルヒムニ於ケルが如シ

第百廿九圖

(「シー」サス、クライスト、イズ、ライズ、ツデー)



第百五十五條 旋律ノ進行シテ此ヨリ彼ニ
 移ル距離ハ順次ナルモ跳越ナルモ通シテ
 之ヲ音程トイフ音程ハ二音ノ相距ル距離
 ニシテ即チ此二音ノ音度ニ於ケル等差ナ
 リ故ニ音程ハ二種ノ聲音ヲ含メリ即チ其
 一ハ高ク其一ハ低シ蓋シ道路ノ里程ニ於
 ケル距離ハ二ヶ所ノ相距ル其間ノ隔リナ

リトイヘ此距離ヲ兩端ニ在ルニケツ場所ハ常ニ此里程ノ中
 ニ含メルモツト看做セリ音樂ニ於テモ亦然リ音程ノ兩端ニ在
 ルニケノ音ハ音程ノ各目中ニ含メルモツト爲ス例ハ(ハ)ヨリ
 (ハ)ニ至ル距離ハ五度ヲ含有スルモノニテ之ヲ五度音程ト爲シ
 固ヨリ(ハ)(ハ)ニ音モ此五度中ニ算入スルヲ以テ(ハ)ハ(ハ)ノ上第五
 度ニ在リ(ハ)ハ(ハ)ノ下第五度ニアルが如シ
 度ノ字ハ既ニ譜表ノ五線四間ノ名ニ用ヒ之ヲ計シテ九度ト
 爲ストイヘリ然レモサヲニ其意義ヲ精晰シ茲ニ音程ナル語
 ヲ用ヘリ何トナレバ半音程ニ於テ變(口)ト本位(口)トハ同シク
 六度ヲ中ニ在リ而シテナホ其間ニ音程アルヲ以テ其音ヲ異
 ニスレバナリ

第二節 音程ノ名稱ノ事

第百五十六條 音程ハ二音ノ間ニ在ル度数ニ由テ之ヲ名ク但シ
 兩端ニ在ル此二音ハ固ヨリ此度数ニ計入セリ即チ二度音程ハ
 二度ヨリ成ル而シテ此二音ハ相距ルニ全音ヲ以テスルモノア
 リ半音ヲ以テスルモノアリ故ニマタ二度音程分レテ二種ト爲
 ル其相距ルニ一全音ヲ以テスルモノハ長二度音程ト爲シ其相
 距ルニ一半音ヲ以テスルモノハ短二度音程ト爲ス

第百五十七條 音樂上ニ用フル聲音ノ天然自然ニ協ラ音階ハ順
 次ニ種々ノ度ヲ備ヘ全音及ビ半音ヲ含ムモノニテ之ヲ全音階
 (ダイアトニク)トイフ蓋シダイアトニク「テ」語ハ全ノ字ノ義ヲ
 含ム希臘語「ダイア」ト音ノ字ノ義ヲ含ム同語「ト」ト「テ」ト

字ヲ合併シタルモノナリ是レ此音階ハ全音程ノ多數ナルモノ
 ニシテ七音中五音程ハ全音ナル所以ナリ

第百五十八條 全音階ハ自然音ヨリ成ル一切ノ諸音程ヲ含有シ
 并ニ嬰變ヲ以テ或ハ上ゲ或ハ下ゲ此自然音ヲ變轉シテ生シタ
 ル各種ノ諸音程ヲ包藏セリ但シ九度音程十度音程十一度音程
 等ノ如キ八音以外ニ屬スルモノハ三度音程三度音程四度音程
 等ノ複出ニ過ギザルモノニテ之ヲヨハニ畧スナホ其詳細ハ之
 ヲ和聲ノ條下ニ講論スベシ

第百五十九條 例ハ(ハ)ヨリ嬰(ヘ)ニ至ル等ノ如キ全音階ノ半音
 程ヨリサヲニ短カキ音程ハ是ヨリ由來スル他ノ諸音程ト共
 之ヲ本編第三章種類論ノ條下ニ詳明スベシ

第三節 全音階十四音程ノ事

第百六十條 音程ハ其包有スルトコロノ度數ヲ以テ之ヲ名ケ音程ノ種類ハマダ其包有スルトコロノ全音若クハ半音ノ數ニ由リ長短ノ名ヲ以テ之ヲ分テリ若シソレ音階ニ於テ諸音程悉ク同一ナルモノナランニハ八個ノ音度ハタマニ七個ノ音程ヲ成スベキノ理ナリ然ルニ譜表上ノミニ於テハ區別スベカラザル全音半音二種ノ音程ヲ含メリ故ヲ以テ全音階ニ十四個ノ音程アリ是レ即チ長短増減大小若クハ嬰變等ノ名ヲ以テ論別スルトコロクモノナリ

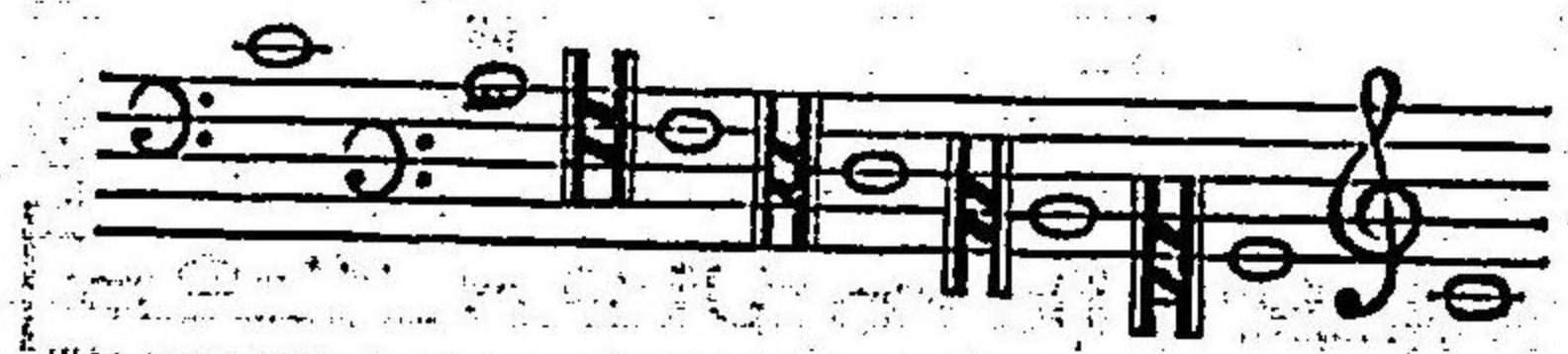
第百六十一條 第二 同音音程

同音音程ハ未ダ當然ナル音程ニ爲スベカラザルモ以テ似タリ

トハ和聲上ニ於テハ之ヲ以テ常ニ音程ト爲ス故ニマダ此旋律ノ音程中ニ算入セリ今ヨ、ニ再ビ七音部ヲ舉テ之ヲ説明シ且其實用ヲ證スルノ機會ヲ失セザラシト欲ス

第百三十圖

七音部ニ
屬スル單
點(第三十
七條)ハ音
ヲ以テ示
ス同音音



第百三十一圖

「ト號及ビ」ハ
號譜表ニ於
テ單點ハ音
ノ下行スル
音階ノ例



音程ノ例

第三百三十二圖

「ハ」號及「ビ」へ

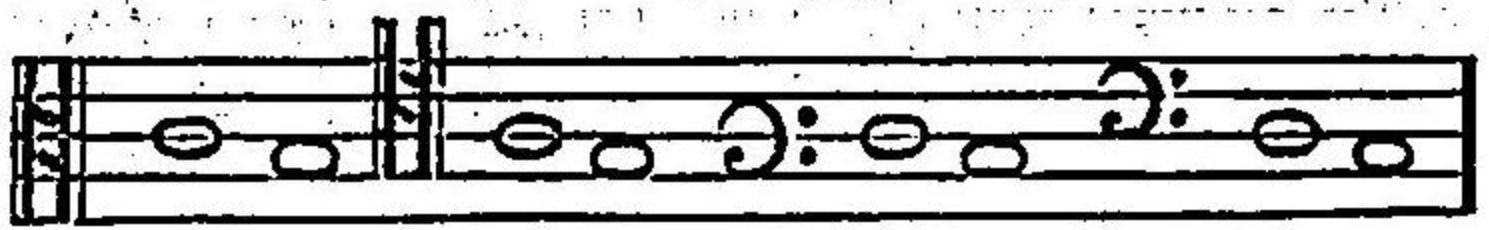
號譜表ニ於

テ小字八音

(第三十六條)

ノ下行スル

音階ノ例



第六十二條 第二 短二度

音程

短二度音程ハ(ロ)(ハ)及ビ(ホ)(ヘ)

ノ如ク全音階的半音度ノ距

離ニ在ル二個ノ聲音ニ由テ

成ル即チ(ハ)(ロ)ヨリ高キ

短二度ニシテ(ロ)(ハ)ヨリ低

キヲ短二度ナリ其他(ホ)(ヘ)ノ

變ニ短二度音程ト名ク是

以テ

如キモ亦然リ此音程ハ時トシテハ之ヲ變ニ短二度音程ト名ク是

和聲上ニ於テ甚ダ緊要ナルモノナリ此音程ハマタ嬰(ヘ)及ビ(ト)

變(ロ)及ビ(ホ)之間等ニ在リ左ノ例ニ於ケルガ如シ

第三百三十三圖

此等ハミナ全音階的半音度ニシテ短二度

音程ヲ成スモノナリ

嬰ノ音ニ次クモノハ上リ變ノ音ニ次クモ

ノハ下ルヲ以テ此ノ如キ例ニ依リテモ嬰

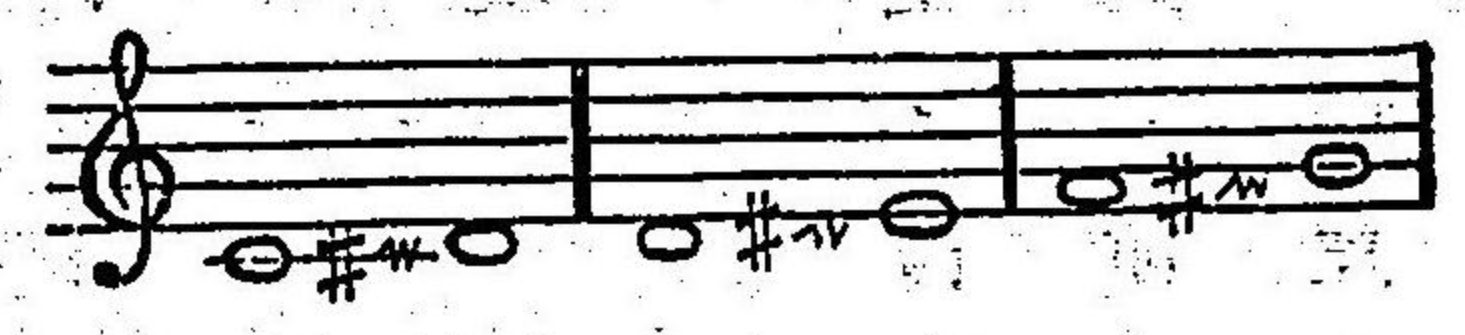
變ノアル所ハユトニ旋律ノ性質ヲ解スル

第六十三條 第三 長二度音程

長二度音程即チ一全音音程ハ三個ノ半音

ヲ成ル然リト雖此二個ノ半音ハ等一ナルモノニアラス其所

以ハ之ヲ音階ニ就テ證認スベシ蓋シ(ヘ)ヨリ(ト)ニ至ル一全音程ヲ嬰(ヘ)ニ由テ分ツキハ嬰(ヘ)及ビ(ト)ノ間ノ音程即チ全音階的半音ト同シカラザルナリ全音階的半音ハ一ノ度ヨリ他ノ度ニ涉リ半音階的半音ハ同シ一度ノ中ニ在リ故ニ「ザアリノ」ヲモ「ペプ」氏等ノ説ニ據レバ前ノ半音ハ後ノ半音ヨリヤ、大ナルモノトス自然音階ノ全音及ビ他ノ音程ハ本書中指示記號(W)ヲ以テ之ヲ半音程等三分テ示ス



第百三十四圖

移調ヲ以テ生ジタル此他ノ一全音音程ハ二全音音程ハ三全音音程ハ四全音音程ハ五全音音程ハ六全音音程ハ七全音音程ハ八全音音程ハ九全音音程ハ十全音音程ハ十一全音音程ハ十二全音音程ハ十三全音音程ハ十四全音音程ハ十五全音音程ハ十六全音音程ハ十七全音音程ハ十八全音音程ハ十九全音音程ハ二十全音音程ハ二十一全音音程ハ二十二全音音程ハ二十三全音音程ハ二十四全音音程ハ二十五全音音程ハ二十六全音音程ハ二十七全音音程ハ二十八全音音程ハ二十九全音音程ハ三十全音音程ハ三十一全音音程ハ三十二全音音程ハ三十三全音音程ハ三十四全音音程ハ三十五全音音程ハ三十六全音音程ハ三十七全音音程ハ三十八全音音程ハ三十九全音音程ハ四十全音音程ハ四十一全音音程ハ四十二全音音程ハ四十三全音音程ハ四十四全音音程ハ四十五全音音程ハ四十六全音音程ハ四十七全音音程ハ四十八全音音程ハ四十九全音音程ハ五十全音音程ハ五十一全音音程ハ五十二全音音程ハ五十三全音音程ハ五十四全音音程ハ五十五全音音程ハ五十六全音音程ハ五十七全音音程ハ五十八全音音程ハ五十九全音音程ハ六十全音音程ハ六十一全音音程ハ六十二全音音程ハ六十三全音音程ハ六十四全音音程ハ六十五全音音程ハ六十六全音音程ハ六十七全音音程ハ六十八全音音程ハ六十九全音音程ハ七十全音音程ハ七十一全音音程ハ七十二全音音程ハ七十三全音音程ハ七十四全音音程ハ七十五全音音程ハ七十六全音音程ハ七十七全音音程ハ七十八全音音程ハ七十九全音音程ハ八十全音音程ハ八十一全音音程ハ八十二全音音程ハ八十三全音音程ハ八十四全音音程ハ八十五全音音程ハ八十六全音音程ハ八十七全音音程ハ八十八全音音程ハ八十九全音音程ハ九十全音音程ハ九十一全音音程ハ九十二全音音程ハ九十三全音音程ハ九十四全音音程ハ九十五全音音程ハ九十六全音音程ハ九十七全音音程ハ九十八全音音程ハ九十九全音音程ハ一百全音音程ハ

等ナリ

第百六十四條 第四 短三度音程

短三度音程ハ

三度ヨリ成リ

而シテ兩端ニ

音ノ間ニ一全

音及ビ全音階

的半音ヲ含メ

左ノ如シ



第百三十六圖



マタ之ヲ全音階の半音二個ト半音階の半音一個トノ三個ノ半音ニ分ツヲ得左ノ如シ

第三百三十七圖

第六十五條 第五

長三度音程

長三度音程ハ三

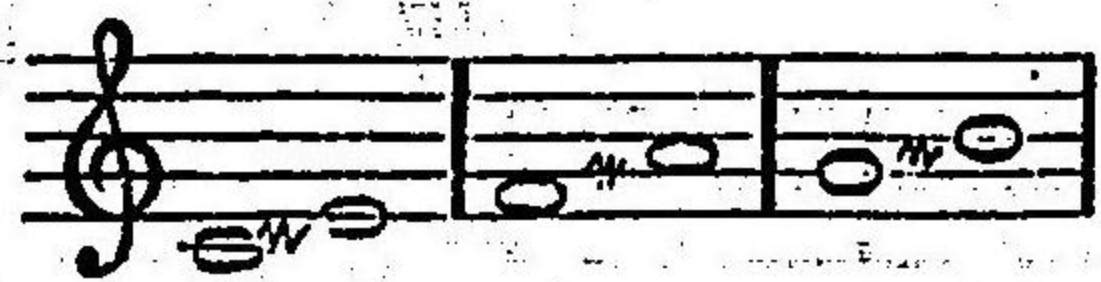
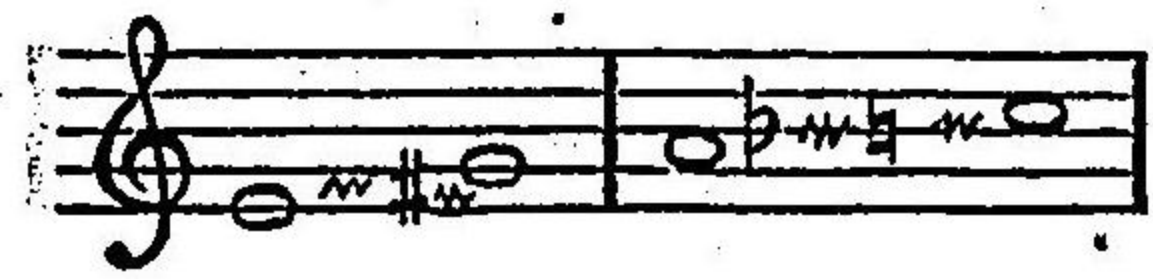
度ヨリ成リ而シ

テ兩端二音ノ間

ニ二全音ヲ含メ

リ左ノ如シ

第三百三十八圖



長及短三度音程ハ往時之ヲ嬰及變三度音程トモイハリ

マタ學士ボイス氏ハ加特カ宗寺院用樂書ニ於テ此語ヲ廢シ易フルニ大及小三度音程ノ名ヲ以テセリ是レマタ全音階の半音二個ト半音階の半音二個ナル四個ノ半音ニ分ツヲ得ベシ左ノ如シ

第六十六條 第六

完全四度音程 完

全四度音程ハ四度

ヨリ成リ而シテ兩

端二音ノ間ニ二全

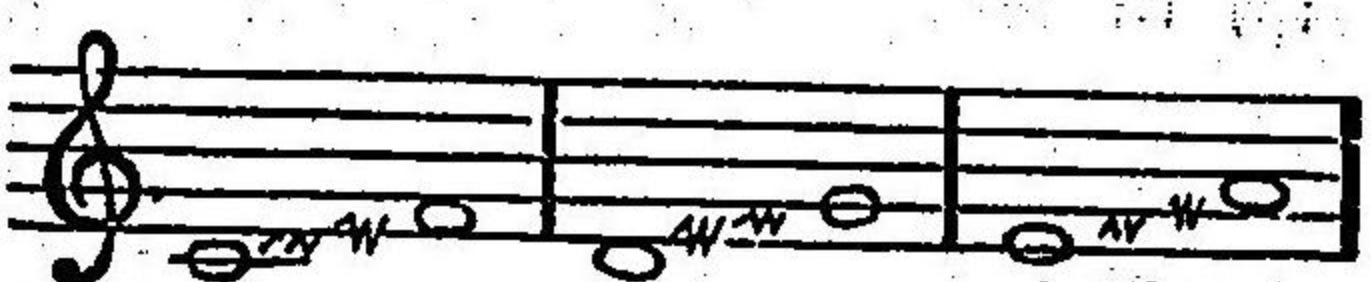
音及ビ一半音ヲ含

メリ左ノ如シ

第三百十九圖



第三百四十圖



是レマタ半音五個ニ分ツヲ得ベシ左ノ如シ

第四百四十一圖

第六十七條 第七 增四度

音程

增四度音程ハ四度ヨリ成リ

而シテ兩端ニ音ノ間ニ三全

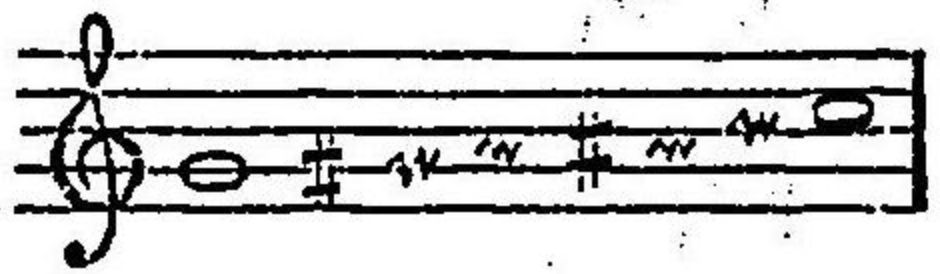
音ヲ含メリ此三全音ハ即チ

古代ノ樂家が三連全音ト名

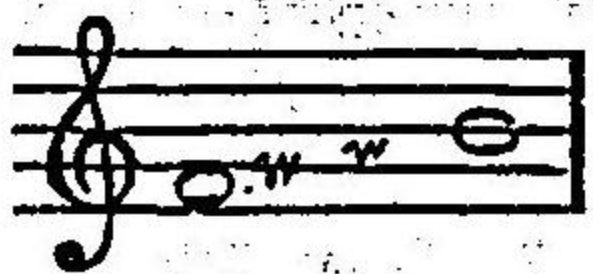
クルトコロノモノナリ左ノ

如シ

三度及ビ三度音程ハ之ヲ名クルニ長短ヲ語ヲ以テシ獨四



第四百四十二圖



度音程ニ完全及ビ増ノ語ヲ以テスル所以ハ次章ニ於テ協不
協音程ヲ論ズル條下ニ講明スベシ

此音程ハ半音六個ニ分ツヲ得左ノ如シ

第四百四十三圖

第六十八條 以上七種同音音程トモニ

實地止音ヲ論スレバ之ヲ第一

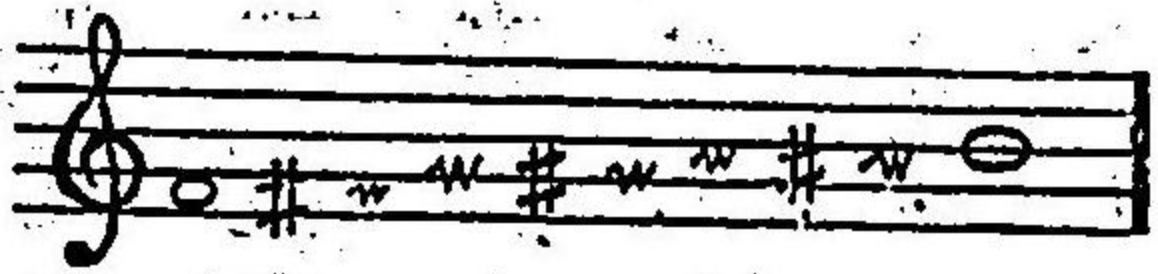
種音程ト爲スベシ其故何ナレバモ

此七種ヲ了解スルハ殘餘ノ七種ハ此

七種ノ連合ナルヲ以テ容易ニ通曉スル

ヲ得タケレバナリ即チ五度音程ハ三度

音程ニ個ヲ連合セルモノニテ六度音程



ハ四度ト三度トノ連合ニ由テ成リ七度音程ハ五度ト三度トヲ以テシ八度音程ハ四度ト五度トヲ以テ成ル而シテ同音音程ニ度音程三度音程及ビ四度音程ヲ以テ第一種音程ト爲ス例ニ由リ五度音程六度音程七度音程及ビ八度音程ハ之ヲ第二種音程ト爲スベシ但シ此ノ如キ分類ハタトヒ旋律ノ分析ニ於テハ有用ナリトイヘヒ和聲學上及ビ全音階的音程理論上ノ分類ヨリ論ズレバナホ不完全ナルモノ如シ蓋シ其完全ナルモノニ於テハ同度八度五度四度三度六度二度及ビ七度音程ハ樂用絲絃ヲ數理上ヨリ小分シテ得ルトエロガレバナナリ

第百六十九條 第八種 不完全五度音程

不完全五度音程ハ五度ヨリ成リ而シテ全音三個半音三個(總

計三全音ヲ成ス)トヲ含メリ

第百四十四圖

是レ短三度音程二個ニ分チマタ(増四度音程即チ三連全音ノ如ク)半音六個ニ分ツヲ合得且該音程ト連合スレバ則チ八度音程ヲ成ス

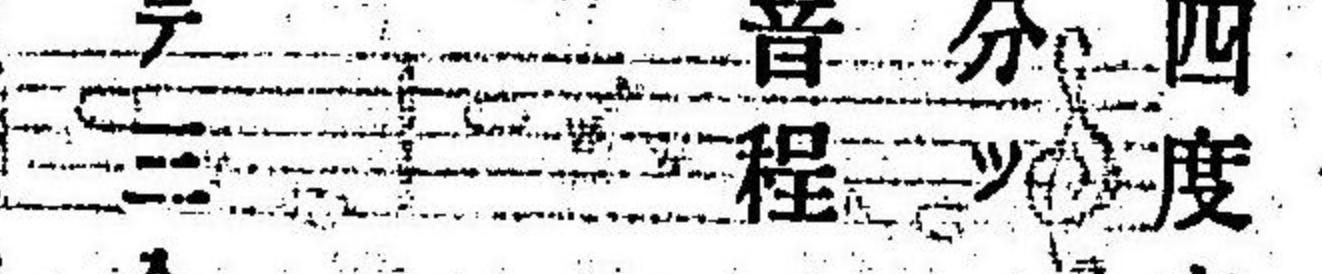
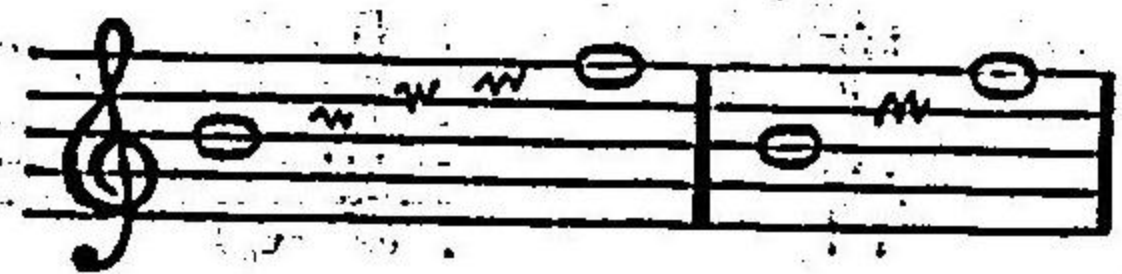
第百七十條 第九種 完全五度音程

完全五度音程ハ五度ヨリ成リ而シテ三全音及ビ半音ヲ含メリ是レ長及ビ短三度

音程ニ分ツヲ得ベシ

第百四十五圖

完全五度音程ニ分チ



是レマタ半音七個ニ分ツヲ得且之ヲ四度音
程ト連合スレバ則チ八度音程ヲ成スベシ



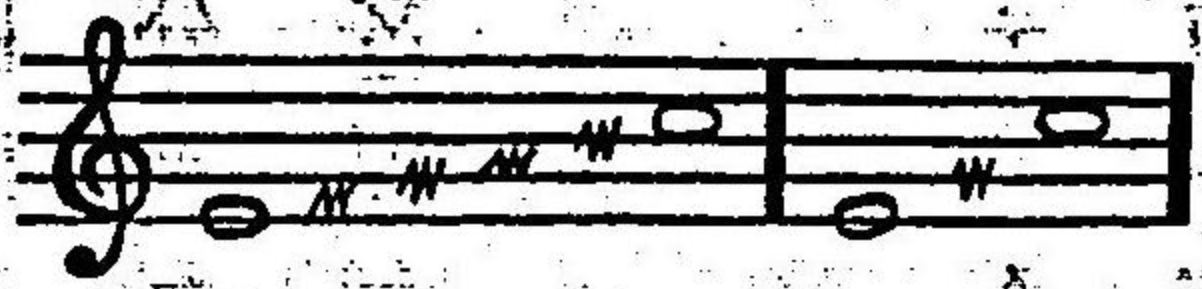
第七十一條半第十音短六度音程

短六度音程ハ六度ヨリ成リ而音階

シテ全音三個及ビ半音二個ヲ

含メリ此音程ハ分チテ短三度

第十四圖



及ビ四度音程ト爲スヲ得ベシ
是レ半音八個三分ツヲ得而シテ之ヲ長三度音程ト連合スル
亦則チ八度音程ヲ成スベシ

第七十三條第十音長六度音程

長六度音程ハ六度ヨリ成リ而シテ四全音及ビ二半音ヲ含メ

此音程ハ長三度及ビ四度音程三分ツヲ得ベシ

第四十七圖



是レマタ九個ノ半音ニ分ツヲ得且之ヲ

短三度音程ト連合スレバ八度音程ヲ成

スベシ

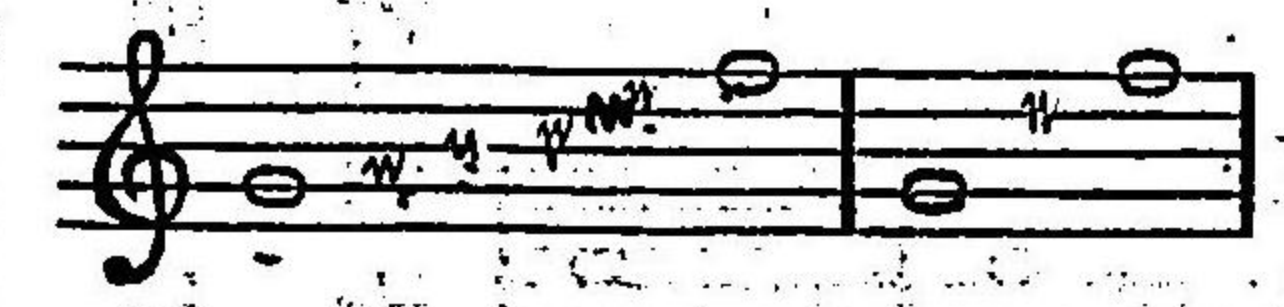
古ノ所謂六音音階ナルモノハ即チ此

音程ヨリ成ル

第七十三條第十音短七度音程

短七度音程ハ七度ヨリ成リ而シテ四全音及ビ二半音ヲ含メリ
此音程ハ分チテ五度音程及ビ短三度音程ト爲スヲ得ベシ

第四百四十八圖



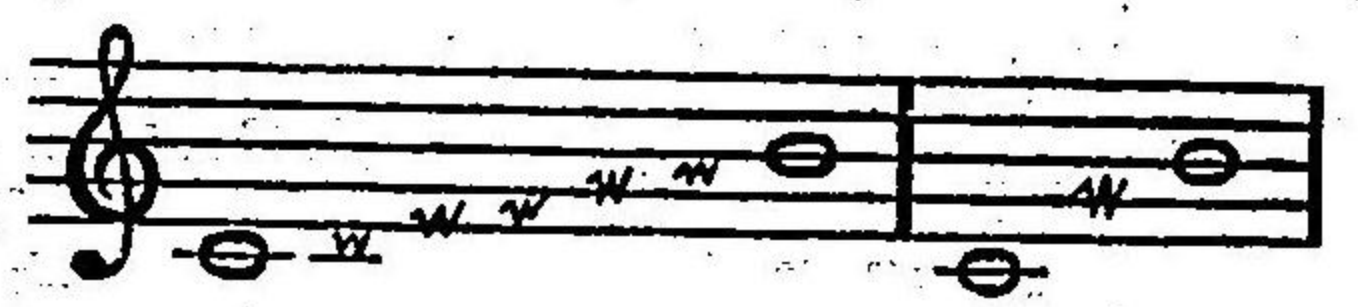
是レマタ十個ノ半音ニ分ツヲ得且之ヲ
一全音ト連合スレバ則チ八度音程ヲ成
スベシ
此音程ハマタ完全四度音程二個ト爲
スヲ得ベシ

第七十四條 第十三 長七度音程

長七度音程ハ七度ヨリ成リ而シテ五全
音及ビ二半音ヲ含メリ此音程ハ五度音程ト長三度音程トニ分

ツヲ得ベシ

第四百四十九圖

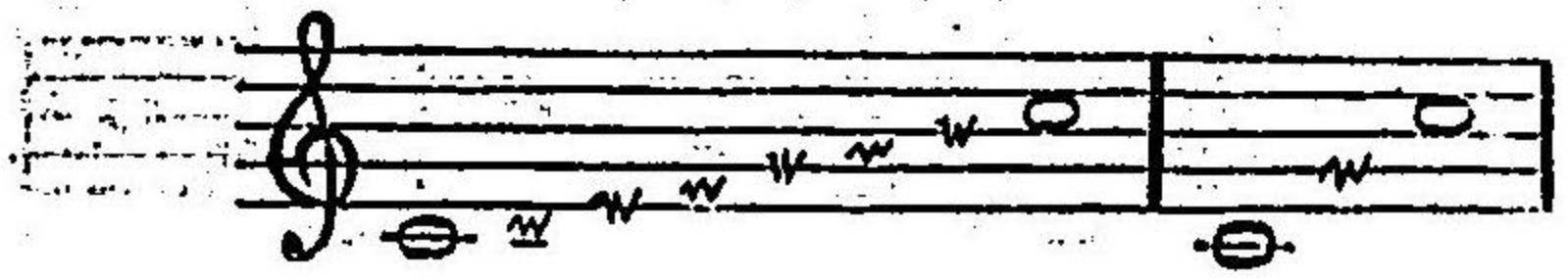


五度及ビ四度音程ニ分ツヲ得ベシ

是レマタ半音十二個ニ分ツヲ得且之
ヲ一全音ト連合スレバ則チ八度音程
ヲ成スベシ

第七十五條 第十四 八度音程

八度音程ハ八度ヨリ成リ而シテ全音
五個ト半音二個トヲ含メリ此音程ハ



是レマタ半音十二個ニ分ツヲ得且此音程ハ同音音程ノ反生ト爲スベキモノナリ

第七十六條 八度音程ハ十三聲音ヨリ成リ而シテ十二個ノ音程ヲ有ツ故ニ生述スル全音階十四音程ハ同音音程ヲ其一ト爲シマタ有鍵樂器ニ於テ同鍵ヲ以テ奏スルトコロノ増四度ト不完全五度トヲ區別スルヲ以テ其數ヲ全ウスルニ至レリ全音階ノ七音ハ相距ルコト自然半音二個ノ場所ヨリ各自ニ七種ノ八音ヲ成セリ

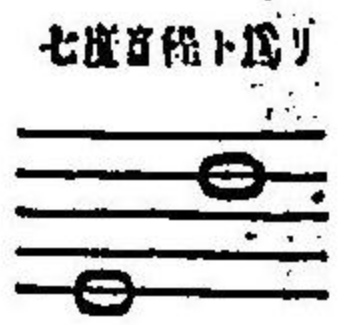
以太利ノ八音及ビ日耳曼ノ十二旋法ニ即チ此七種ノ各八音ヲ或ハ五度或ハ四度ニ於テ二分シタルモノヨリ生ズルトコロナリ

第七十七條 音程ノ下音ヲ上ニ轉シ八音上リタルトコロニ置キ或ハ其上音ヲ下ニ回シ八音下リタルトコロニ置クヲ得此變化ヲ名ケテ音程ノ轉回トイフ即チ

第四節 音程轉回ノ事

第七十七條 音程ノ下音ヲ上ニ轉シ八音上リタルトコロニ置キ或ハ其上音ヲ下ニ回シ八音下リタルトコロニ置クヲ得此變化ヲ名ケテ音程ノ轉回トイフ即チ





第七十八條 自然七音ノ各ヨリ起算シタル諸音程(七個ノ)ハ左
ニ擧ル三種ノ連續ヲ爲セリ
長三度音程五個及ビ短二度音程三個
長三度音程三個及ビ短三度音程四個

完全四度音程六個及ビ増四度音程一個

以上ノ轉回シタルモノハ左ノ如シ

完全五度音程六個及ビ不完全五度音程一個

長六度音程四個及ビ短六度音程三個

長七度音程二個及ビ短七度音程五個

第七十九條 長音程ハ轉回ニ由テ總テ短音程ト爲リ短音程ハ

長音程ト爲リ増四度音程ハ不完全五度音程ト爲リ同音音程ハ

八度音程ト爲ル

古書ニ於テハ長短ノ語ノ場ニ常ニ嬰變ノ語ヲ用ヒタリ (第
百六十五條ヲ參見セヨ)

第八十條 音階ノ長七度音程ハ増四度音程(上音ハ増四度音程

ヲ成ストコロノ二音ノ上音ト等シキヲ以テニ類似スルトコロ
アルヲ以テマタ數之ヲ嬰七度音程トモイヘリ

第百八十一條 ヲモル氏ハ 第百五十二圖

三度五度及ビ七度ノ音程

ヲ根本音程ト名ケ而シテ

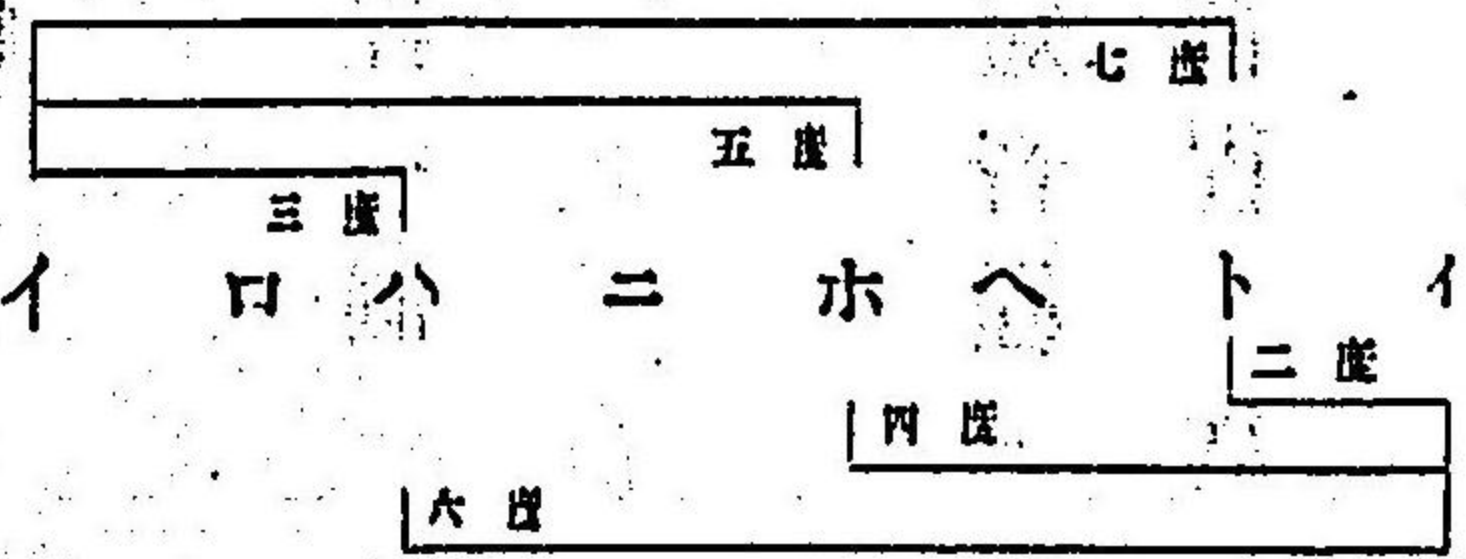
他ノ三音程即チ二度四度

及ビ六度ノ音程ハ之ヲ左

ノ方法ニ由テ根本音程

上第八音ヨリ下ニ轉回シ

テ得ルモ



第百八十二條 此等ノ音程ハ總テ全音階即チ自然音階ニ屬シ而

シテ嬰若クハ變ヲ用ヒテ或ハ之ヲサラニ高キ調或ハ之ヲサラ

ニ低キ調ニ移スル其毫モ變ズルナキハ後欸ニ就テ證認スベ

シトモ

既ニ論述セシモノト通例混合スル所ノモノニシテ且半音階及

ビ四分音階ニ屬スル所ノ自餘ノ音程ハ姑ク之ヲ此ニ略シ

本編第三章種類論ノ條下ニ讓ル

第百八十三條 全音階ニ屬スル總音程中ニテ長短三度音程ノ二

種ハ特ニ緊要ナルヲ以テ詳明通曉セザルベカラザルモノトス

其故ハ音階即チ調ノ主質トスルトコロノモノ一ニ此二種ノ音

程ニ屬シ三度音程長ト爲ルハ此音階ヲ稱シテ長音階トイヒ

三度音程短ト爲ルハ之ヲ稱シテ短音階トイヒ七音列各ミナ
此三度音程ヨリ其名ヲ取ルヲ以テナリ

第百八十四條 全音階ノ音程ヨリ 第百五十三圖

成ル旋律ニ就テナホ一ケ條 (ソフト、ハル、インシユルス) 二
述ブベキモノアリ其說ヤ、陳

シトイヘ凡音樂ヲ學ブ者ノ宜シク知ルベキトコロナリ蓋シテ

其主要ナル音ヲ專ラ主調音ト
其第八音トノ間ニ存スル旋律



ハ之ヲ名ケテ正格トイフ左ノニ
例ニ於ケルガ如シ

第百八十五條 此ニ反シテ專ラ之ヲ主調音ノ第五音ト其第八音
(即第十二音)トノ間ニ存スル旋律ハ之ヲ名ケテ變格トイフ左ノ

例ニ於ケルガ如シ

第百五十四圖

既ニ上ニ論及シタル以太利

八音及ヒ日耳曼ノ十二旋法ハ



此正格變格ナル二種ハ八音ヨ

第二章 協音程及不協音程ノ事

第百八十六條 協不協ナル語ハ專ラ之ヲ和聲上ニ用フトイヘル
マ^タ旋律上音程ヲ區別スルニ當テ用フルトコロ少シトセズ

第百八十七條 故ニ全音階的音程ハ之ヲ分チテ協不協ノ二種ト
爲ス八度音程五度音程四度音程長短三度音程及ビ長短六度音
程ノ如キ其和諧完全ニシテ耳ニ入テ最モ爽快ナルモノハ之ヲ
名ケテ協音程トイヒ長短二度音程長短七度音程及ビ増四度音
程^ノ如キ其和諧不完全ニシテ耳ニ入テ不快ナルモノハ之ヲ名
ケテ不協音程トイフ

第百八十八條 或ル音樂家ハ旋律ノ跳越スルヨリモ迴カニ聲音
程^ノ自然ニ協フトコロノモリニ不協音程^ノ名ヲ下スハ其當ヲ得

ガルモノトセリ然レモヨク和聲學ヲ研究セバ斯ノ如キ迷霧ヲ
脱スルヲ得ベシ

第百八十九條 兩端三音ノ間ニ在ル半音^ノ數ニ由リ三度三度六
度及ビ七度音程^ノ種類ヲ分ツニ長短^ノ語ヲ以テシ而シテ四度
及ビ五度音程ニ就テハ完全^ノ語ヲ用ヒ其半音^ノ高低アルモノ
ニハ増若クハ不完全即チ減^ノ語ヲ用フル所以ハ十四音程ヲ擧
テ上ニ論述スルトコロヲ以テ明ナリトス

第百九十條 三度音程及ビ六度音程ハ其長短ニ關セズ常ニ之ヲ
協音程ト爲シ三度音程及ビ七度音程ハ常ニ不協音程ト爲ス然
レモ四度音程及ビ五度音程ハ其完全ナルモ協音程ト爲シ其増
若クハ不完全即チ減ト爲リタルモハ之ヲ不協音程ト爲ス故ニ

四度音程及_レ五度音程ハ他_ノ諸音程ト其種類ヲ異ニセリ且長短ノ語モ往々此二個ノ語ニ就テ用フルアリトイヘル本書中ニ於テハ全ク之ヲ廢ス

第百九十一條 協音程ハサラニ分チテ完全不完全ノ二種ト爲シ同音(即チ初度)音程八度音程五度音程及_レ四度音程ヲ完全協音程ト爲ス蓋シ此等ノ音程ハ一定不變ノモノニシテ長ヨリ變ジテ短ト爲リ又ハ短ヨリ變ジテ長ト爲ルコナシ但シ嬰變若クハ本位記號ヲ以テ之ヲ變ズルキハ則チ必ス不協音程トナルナリ

第百九十二條 三度音程及_レ六度音程ハ之ヲ不完全協音程ト爲ス何トナレバ此等ハ長ヨリ短又ハ短ヨリ長ニ變ジ而シテナホ依然協音程タルヲ以テナリ

第百九十三條 二度七度増四度不完全五度音程其他半音階的音程及_レ四分音階的音程ハ之ヲ不協音程ト爲ス

第百九十四條 此分類ニ由レバ旋律ノ順次ニ度ヲ逐テ旋行スルモノハミナ不協音程ヨリ成ルモノ、如シ然レハ交互隔接スル音ハ通例二個ノ協音ノ間ニ在リテ兩屬ノ音ナリ故ニ此等ノ二度音程ハ増四度不完全五度及_レ長短七度音程等ノ如ク跳越シテ旋行スルモノニ於ケル如キ粗暴ナルトコロナシ

第百九十五條 旋律上ニ於テ不協音ナル二度音程ハ孰レモ經過音若クハ變過音(第百九條)ナリ是等ノ音程ハ小節ノ弱聲部ニ於テハ規則正シクシテ其強聲部ニ於テハ不規則ナリ故ニモシ此等ヲ除キタラシニハ殘ルモノハ協音ノ連續ト爲ルベシ

第百五十五圖

(ガホ、デットスト、ブロー)



此旋律ハ規則正シキトユロニ於テ二符
ヲ除キ不規則ナルトコロニ於テ交互一
符ヲ除キテ協音程ト爲スヲ得然ルハ
則チ左ノ如キモソト爲ルベシ

此旋律ハ規則正シキトユロニ於テ二符ヲ除キ不規則ナルトコロニ於テ交互一符ヲ除キテ協音程ト爲スヲ得然ルハ則チ左ノ如キモソト爲ルベシ

第百五十六圖



第百九十六條 三度音程及ビ六度音程ノ

協合シタル連續ハ長短音程ノ混合繼續

スルヲ以テ非常ニ耳ヲ悅バシメリ且前

記ノ例ニ於ケル如ク順次ニ旋行スル曲

ノ多分ハ經過音及ビ變過音ヲ除キ三度

音程ニ四度音程ノ混合シタルモノト爲

スヲ得ベシ

第百九十七條 各二人連奏曲ノ過半部分

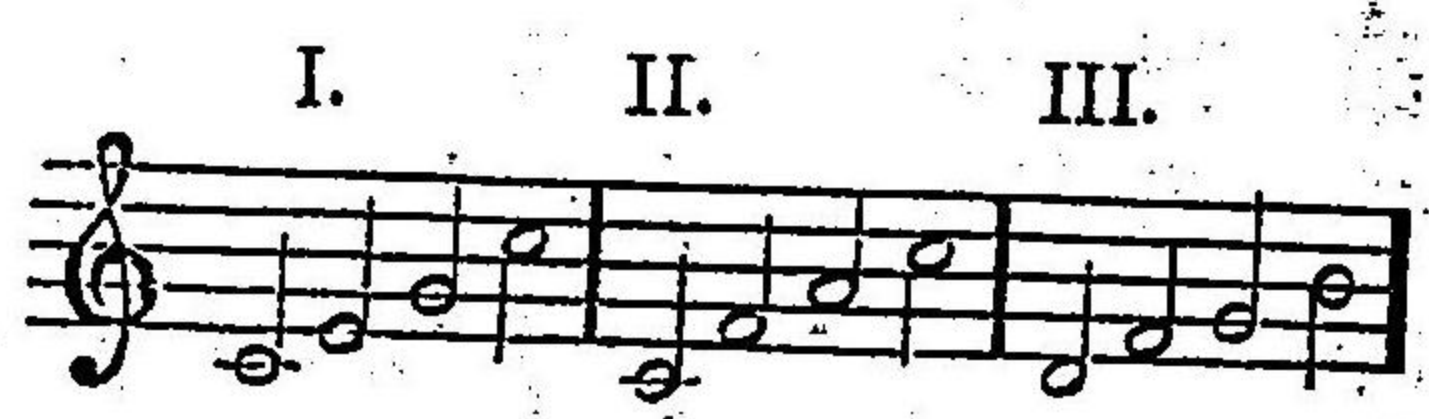
ハ三度音程若クハ六度音程ヨリ成ル而

シテ此等ノ音程ニ數四度音程及ビ五度音程ヲ交フルルハ曲ノ

一進動中複旋律ヲ連續セシムルヲ得
 第百九十八條 完全五度音程ノ連續繼續シタルモノハ呂律ノ旋
 法ニ協ハズ故ニ和聲上ニ於テ之ヲ禁ズ斯ノ如キモノハ旋律上
 ニ於テハ自然音階ノ度ヲ踰エ人聲ノ達スベカラザルトコロト
 爲リ而シテ和聲上ニ於テハ新異ニシテ斷離シタル一種ノ音階
 ヲ成セリ此音階ハ三度音程及ヒ六度音程ヲ廢絶スルヲ以テ長
 短ノ種類ヲ混亂セルモノナリ
 第百九十九條 今假リニ音階ヲ三部ニ分チ始ノ二部ヲ協音的
 爲シ終ノ一部ヲ不協音的ト看做ス此ハサラニ經過音ノ意義ヲ
 詳明スベシ

第百五十七圖

第百五十八圖
 第百五十八圖



部即チ主和絃
 部ニ於テハ經
 過音ハ第二第
 四第六及ビ第
 七ナリ左ノ如
 シ



第百一一條 第二部即チ次屬和絃部ニ於テハ經過音ハ第二第三
 第五及ビ第七ナリ左ノ如シ

第二百五十九圖

第二百二條 第三

部即チ屬和絃部

ニ於テハタゞニ

第三及ビ第六ノ

ミヲ以テ經過音

ト爲ス左ノ如シ



第三章 旋律ノ種類ノ事
第一節 三種ノ旋律ノ事

第二百三條 全音ヲ多分ヨリ成ル音階ハ既ニ(第一百五十七條)説明

スル如ク之ヲ名ケテ全音階トイフ是レ各樂曲ノ主要ナル部分

ヲ爲スモノナリ

第二百四條 自然音ノ間ニ作爲音ヲ交フルルハ音階ハ盡ク半音

ヨリ成ル之ヲ名ケテ半音階トイフ

第二百五條 此半音ヲサラニ分チシモノ即チ四分音程ヨリ成ル

モノハ之ヲ名ケテ四分音階トイフ

第二百六條 以上ニ論述スル全音階半音階四分音階ノ三種ハ即

チ方今世ニ行ハル、呂律旋法ノ三種ト爲ス此三種ノ階名ハ希

臘ノ著述家ガ用ヒシ語ヲ襲用セルトコロナリトイヘ近現代ニ

至リテハ此語ノ意義ハ其古代ノ意義ト頗ル異ナルトコロアル

ナリ

第二百七條 全音ナル語ノ根源ニ就テハ既ニ説クトコロアルヲ以テ姑ラク之ヲ略ス半音ナル語ハ彩色ノ義ヲ含ム希臘ノ「クロマトイヘル語ヨリ來レリ是レ半音ハ全音ノ旋律ニ彩色ノ如キ影響ヲ與フレバナリ四分音ナル語ハ「エンハーモニック」即チ非常ニ樂趣アルノ義ヲ含メリ是レ此音ヲ以テ此ノ如キモノト爲シタル古人ノ想像上ヨリ出タリトイフ

第二百八條 半音階及ビ四分音階ノ二種ハ常ニ之ヲ全音階ト混用シ決シテ一種ノミ特用スルコトナシ故ニ全音階ヲ除キ他ノ二種ハ全ク亡失ニ屬シ得テ回復スベカラザルニ至レリトイフ夫レ此二種ノ音階ハ太古ノ使用ニ係ル原義ニ於テハ全ク亡失

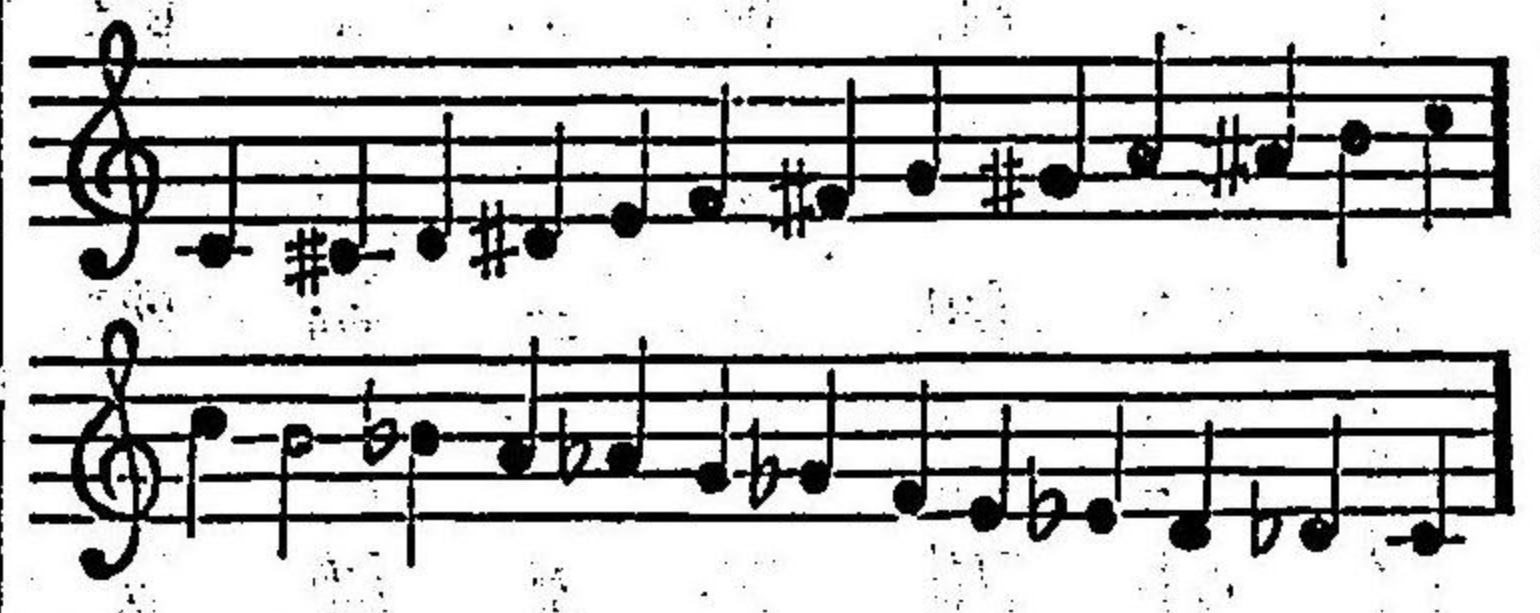
セシコ疑ヲ容レズトイヘモマダ今日實際ニ於テ太古ノ意義ト彷彿タル意義ニ於テ半音階ナル語ヲ用フルコトアルハ確乎タル實事ナリ故ニマダ半音階及ビ四分音階ナル語ハ之ヲ保存シテ可ナリトス

第二百九條 佛蘭西ノ樂書ニナホ二種ノ混合音階ヲ載スルモノアリ即チ全音四分音階及ビ半音四分音階是ナリ全音四分音階ニ於テハ全音階的半音二個連續スルトコロアリ半音四分音階ニ於テハ半音階的半音二個連續スルトコロアリ夫レ斯ノ如キ類別ハ名稱トイヒ方法トイフモタゞ奇異ナルノミニシテ實用ヲ存セザルモノトス何トナレバ「ペプシ」氏ニ據リテモ全音四分音階ハ上古ノ所謂全音二分音階ト同一ニシテマダ半音階的半

音二個ノ連續シタルモノハ希臘法ノ柔半音階ニ在レバナリ
第二節 半音階及ビ其音程ノ事

第二百十條 半音階ハ通例嬰ニ由テ上リ變ニ由テ下ル左ノ例ニ
於ケルガ如シ

第百六十一圖



第二百十一條 此音階ヨリ未ダ上ニ
論及セザル種々ノ音程ヲ生ズ此音
程ハ總テ不協音程ニシテ或ハ特例
ヲ以テ之ヲ和聲上ノ連合ニ用フル
トアリトイヘモ專ラ旋律上ニ用フ
ルトコロナリ
第二百十二條 半音階ハ十三音ヨリ

成リ其間ニ十二音程ヲ含メリ其七個ハ既ニ全音程ノ部ニ論述
スルトコロニシテ殘ル五個ハマタ一種ノ音程ヲ成シ所謂半音
程ノ純粹ナルモノナリ此等ノ半音階的半音ノ中ニ就キ増二度
音程減三度音程及ビ減四度音程ヲ以テ單種即チ本種類ト爲シ
増五度音程増六度音程減七度音程及ビ減八度音程ヲ以テ複種
即チ屬種類ト爲ス

第二百十三條 第一 半音階的半音程
半音階ノ半音ハ或ル音ト此音ヲ嬰ヲ以テ上ゲ若クハ變ヲ以テ
下ゲタルモノトノ間ニ在ル音程ナリ

第百六十二圖
半音階的半音ノ上リタル例

(「スウィート、ボルド、ザット、シヤンスト」)

第百六十三圖

半音階的半音ノ下リタル例

(「トルン、ナット、オー、ク、イン」)

第百十四條 「ピサゴ

ラス」派ノ音樂家ハ此

半音ヲ「アポトム」トイ

フ全音階的半音ヲ「リ

ンマ」トイヘリ然リ而

シテ此等ノ音樂家ハ

「アポトム」即チ變(ロ)ニ



リ本位(ロ)ニ至ル距離ノ如キヲ以テ「リンマ」即チ(イ)ヨリ變(ロ)ニ至
 ル距離ノ如キヨリサラニ大ナルモノト爲セリ然レモ「ザアリン」
 及ビ「サリナス」氏ノ説ノ正シキ「ハ」タルセン「子」氏等ノ實驗ヲ以
 テ辨明スルトコロナリ此二氏ノ説ハ「ボイシニス」及ビ「ピサゴ」
 ス「派」ノ説ト相反シ(イ)ヨリ變(ロ)ニ至ル音程ハ長半音程ト爲シ變
 (ロ)ヨリ本位(ロ)ニ至ル音程ハ短半音程ト爲セリ

第百十五條 半音階ニ於テハ半音ハ半音階的ト全音階的ト交
 互繼續セリ但シ半音階的半音ハタ、五個ナルニ全音階的半音
 ハ七個ナルヲ以テ全音階的半音ハ自然半音ノトコロニ於テ二
 個連續スルモノアリ左ノ如シ

第百六十四圖

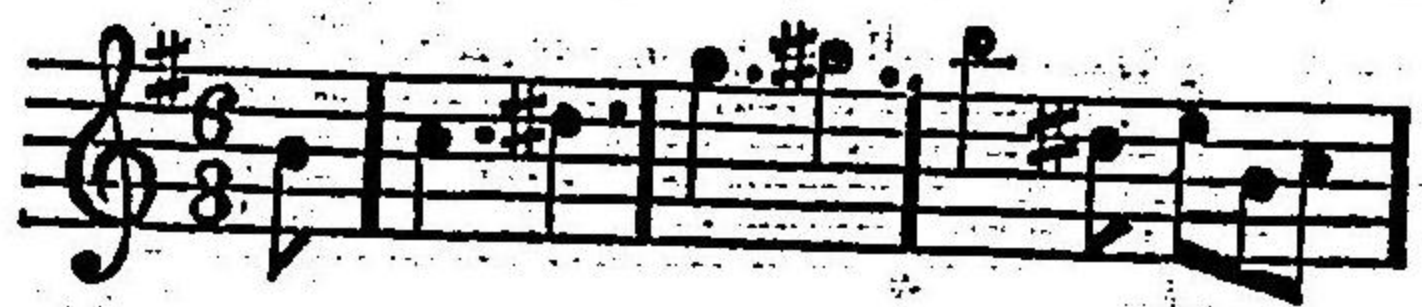
上行 下行



第二百十六條 此半音程(半音階的)ヨリマタ他
 ニ種々ナル變音程ヲ生ゼリ此變音程ハ半音
 階的半音ヲ以テ全音階的音程ヲ増減シタル
 モソナリ故ニ此變種ノ音程ニハ程名ノ上ニ
 増若クハ減ノ一字ヲ加ヘ以テ之ヲ區別ス
 第二百十七條 第二 増二度音程
 増二度音程ハ二度ノ場ニ於テ全音一個ト半
 音階的半音一個トヲ以テ成ル此音程ハ有鍵
 樂器ニ於テハ短三度音程ト同一ナリ但シ短三度音程ハ全音一
 個ト全音階的半音一個トヲ以テ成ル故ニ三度ニ渉ル

第百六十五圖

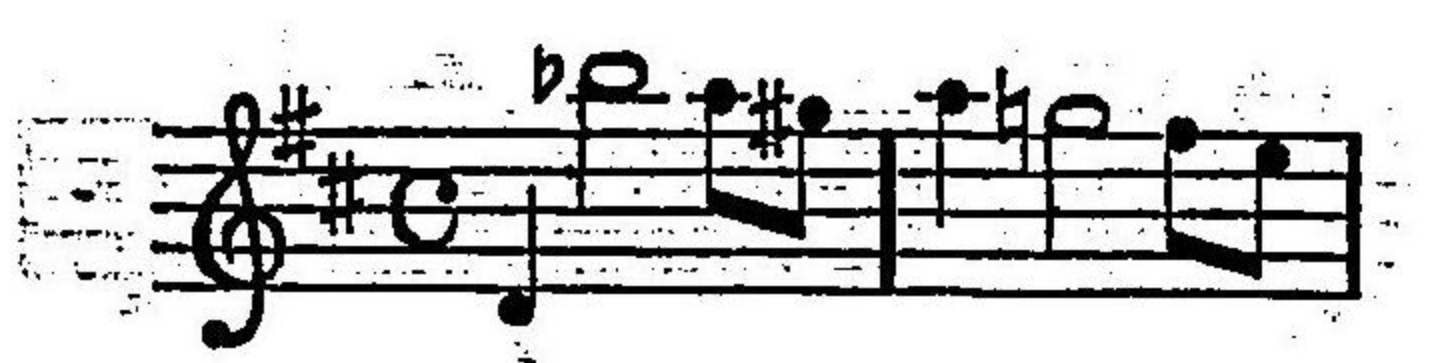
(ツ、ウニチー、アノド、アスリ、ブライド)



第二百十八條 第三 減三度音程
 減三度音程ハ三度ノ場ニ於テ全音階的半
 音二個ヨリ成ル是レ即チ短三度音程ヲ半
 音階的半音減シタルモノナリ此音程ハ有
 鍵樂器ニ於テハ二度ヨリ成ル一全音ト同
 此音程ハ唱謠音樂ニ於テハ甚ダ粗暴ナル
 聲音ヲ生ゼリ故ニ此間ニ中間ノ聲音ヲ挿
 入スルヲ常トス左ノ例ニ於ケルガ如シ

第百六十六圖

（プロフェチック、ラプナレアラ）



此例ニ於テ變(ロ)ト嬰(ト)ノ間ニ在ル(イ)ハ
臨時ニ挿入セルモノニテ即チ經過音ナリ
第二百十九條 第四減四度音程 全音ニ
減四度音程ハ四度ノ場ニ於テ全音一個ト
全音階的半音二個トヲ以テ成ル即チ完全
四度音程ヲ半音階的半音減シタルモノナ
リ此音程ハ有鍵樂器ニ於テハ三度ヨリ成
ル長三度音程ト同一ナリ

第百六十七圖

（オー、ミルロル、オフ、アワー、フックル、ステート）

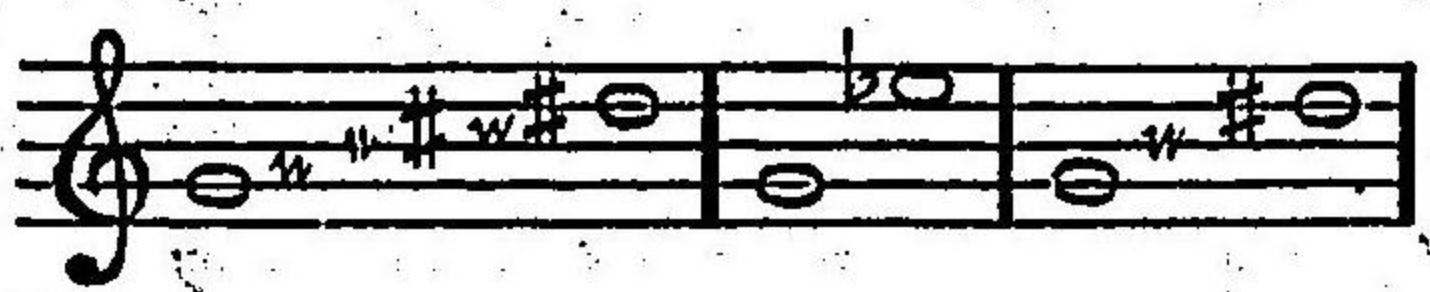


茲ニ本位(ホ)ハ變(ホ)ノ代リニ用ヒタルモノナ
リ
三百二十條 以上三種ノ音程即チ
増二度音程
減三度音程及ビ
減四度音程
轉回シタルモノハ左ノ如シ
増五度音程
増六度音程
減七度音程

第二百二十一條 第五 增五度音程

增五度音程ハ完全五度音程ニ半音階的半音ヲ増加シタルモノ
 ニテ五度ニ渉ル四音ヨリ成リ有鍵樂器ニ於テハ六度ニ渉ル短
 六度音程ト同シ此音程ハ旋
 律上ニ用フルト甚ダ稀ニシ
 テ通例其轉回音程即チ減四
 度音程ヲ以テ之ニ易フ
 是レマタ二個ノ長三度音程
 ニ分ツヲ得

圖八十六百第



第二百二十二條 第六 增六度音程

增六度音程ハ長六度音程ニ半音階的半音ヲ増加シタルモノニ
 テ六度ニ渉ル五音ヨリ成リ有鍵樂器ニ於テハ七度ヨリ成ル短
 七度音程ト同
 一ナリ
 此音程ハ長三
 度音程ト嬰四
 度音程トニ分
 ツヲ得

圖九十六百第



第二百二十三條 第七 減七度音程

減七度音程ハ短七度音程ヲ
 半音階的半音減シタルモノ
 ニテ七度ニ渉ル全音四個ト
 全音階的半音二個トヲ以テ
 成リ有鍵樂器ニ於テハ六度